

神奈川県立鎌倉高校同窓会会報

あしお

第 37 号

特集 話題の人



夏到来

丸山晶子(昭和63年卒業)

目 次

会長ご挨拶	3
校長ご挨拶	3
特集：話題の人「関 出」	4
私のお店紹介	9
在職中の鎌高の思い出	10
同窓会・クラス会	11
四国八十八ヶ所巡り	14
在学期間僅か 2 学期間の卒業生	17
鎌高卒、優れたアーティスト	20
職員人事異動	23
部活動報告	24
協賛金	28
会計報告	29
総会案内	30
役員名簿	31
編集後記	31

題字：増田 隆子（旧姓／小島 昭和 41 年卒業）

表紙：作者 略歴

丸 山 晶 子【まるやま あきこ】（昭和 63 年卒業）

神奈川県藤沢市出身 藤沢市在住

小さな頃から絵を描くことが大好きで水彩画、油彩画、パステル画を趣味で描き続けてきた。その後京都で染織を学び、型染めや藍染めを中心に制作。

自ら名付けた“型絵染画”とは型染めの技法を取り入れつつ、彩色では単に色を染めるというよりは描くという絵画的な表現方法を使っている。湘南の四季の風景を主に制作。

2008 年鶴沼桜が岡にアトリエ兼ギャラリー“あとろえ梅庵”をたちあげ、個展やグループ展、イベント、ワークショップも企画開催している。



ごあいさつ

会長 渡辺 晃
(昭和47年卒)



同窓生のみな

さまはじめまして。昨年の6月の総会でご承認をいただき同窓会の会長を務めることになりました。

ごあいさつ

校長 重田 宏



4月1日付で、着任いたしました。重田です。

前職は、総合教育センター教育事業部長でした。

総合教育センターは、あまりご存知ではないかもしれませんが、義務教育も含めた全県(政令市を除く)の教員対象の研修と教育に関する研究、教育相談を行っているところです。

近年では、教員を目指す人に対して、ティーチャーズカレッジ(採用試験受験希望者向け)や教職セミナー(高校生対象)なども実施しています。全県の教員の中から集まっ

おりました。大学卒業後は、県内の学校に勤務し平成8年4月から平成20年3月までは母校の鎌倉高校で12年間教員として務めさせていただきました。

前鈴木会長は事務局が鎌倉高校から手を離れて、卒業生の役員で分担して業務を行う過渡期のなか、大変ご苦労なされたことと思います。一方で幅広い人脈を生かされ、同窓会の発展におおいに貢献いただき感謝申し上げます。

皆様方もご承知のように、鎌高は今年で創立90周年を迎えます。11月

た指導主事は小学校や中学校籍の者も多く、特に小学校の授業であるとか学習に対する考え方など高校にいただけでは分かりにくい部分についてかなり勉強させていただきましたので、どこかで活用できればと思っています。

体育館の耐震工事が終わったところですが、今回、新たにB棟とE棟が耐震補強工事の対象となりました。今年度に設計を行い、実際の工事は平成31年度からとなりますが、仮設のプレハブ校舎を建て工事中は一部仮設校舎での授業となります。授業をはじめ学校行事や部活動などにも大きな影響が出ることになりませんが、耐震補強工事にあわせて老朽化対策もなされるので、トイレ改修も含め、きれいな校舎になると期待しています。

授業の質と量の充実に向けた取り

15日に、鎌倉芸術館で記念式典を行います。同小ホールにて祝賀会を予定しております。

式典の公演には「うしお」第36号の特集で紹介された、世界的な活動をされ、テレビ等でも活躍の関西学院大学客員教授の大崎麻子さんにグローバルな観点からの講演をしていただく予定なっています。まずはこの90周年記念式典、祝賀会の無事成功に努めたいと思います。

「うしお」も、今号からA4判にして(表紙と最後のページはカラー)、より読みやすい工夫をしています。

組みの中で、年間の計画を見直して昨年7月初めに鎌高祭(文化祭)を実施し、夏季休業前に体育祭の要素を採り入れた鎌高スポーツ大会を実施しました。引き続き生徒のエネルギーシユな活動が見える行事に行きたいと思っています。

オーストラリアの高校との交流事業について今年度は訪問する年にあたり、選ばれた19名の生徒が7月の訪問に向けて準備を重ねているところです。また、昨年度から導入したカナダへの海外語学研修も多くの希望者が集まり、60名の生徒で8月に実施します。

部活動では、アメリカカンフットボール部が昨年度、22年ぶりの関東大会出場を果たしベスト8に入りました。また、サッカー部の山田さんが国体の神奈川県代表に選抜され、ゴールキーパーとして少年男子の部

個人情報保護や経費削減のために、ページ数を減らした関係で、協賛金の協力者のお名前の掲載も割愛させていただきます。ご理解の程よろしく願います。

また、現在鎌高職員に卒業生がいないため、同窓会の事務局には常駐者おりません。住所変更等の連絡が留守電に入っていることが多いのですが、対応に手間取ることもありますので、出来ればFAXまたは鎌高ホームページからのメールで問い合わせさせていただくとありがたいです。よろしく願います。

優勝に貢献するなどの活躍もあり、どの部活動も盛んに活動しています。

平成30年度の入学選抜は、1学級増の9学級(358名)募集で実施しました。3年前に7学級から8学級に増え、8学級の学年が卒業するのと入れ違いでまた1学級増となりました。倍率は下がりましたが、志願者は前年並みの421名が集まり高い人気は維持されています。

進学状況は、数字的には目覚ましい実績ということにはなっていませんが、生徒には入れる大学ではなく入りたい大学を選択するという意識付けを行ってまいります。

最後になりますが、鎌倉高校は90周年を迎えました。うしお会の皆様には様々な面で生徒の活動を支えていただいていると思っております。今年度もよろしく願います。上げます。

特集

II 話題の卒業生 II

東京藝術大学名誉教授

関

18回生 (S42年卒)

出

此度、うしお会副会長・会報担当の森田豊文様にこの機会をいただき、誠に有難うございました。

森田様と北鎌倉にてお目に掛かり、ご相談の上この形式で記載させていただきますことになりました。



鎌倉高校

クラブ活動は三年間、美術部に入っておりました。各部員の制作と発表活動はとても盛んで、日常の部活と共に、野外写生会や名品鑑賞の機会、地域の他校美術部との交流企画などもあり、愉快的な思い出に満ちております。

相撲部の土俵脇を通った先に、平屋の芸術科館(音楽室・美術室)があり、美術室の裏山側は弓道場で、和弓を引く姿や弦音、的中音などに興味を持つてしばしば眺めておりました。部員数は多く、同学年だけでも18名余りがおりました。文化祭の折に、卒業した先輩方も含めて50名程が美術室に集まった、記念の写真が今も手元にあります。顧問は東京美術学校(現東京藝術大学) 画師範科を昭和10年に卒業された日本画家の伊藤昇先生(雅号は紫陽)でした。

私は、小学生の時期に吉崎道治氏(洋画家)、中学生の時期に富田克氏(洋画家)、お二人に師事しておりましたが、日本画の絵肌についての詳細は、伊藤先生からの御指導によって理解を深めました。指針を与えて頂いた恩師の一人として深く感謝いたしております。(伊藤先生は平成5年7月にご逝去)

鎌高に入学した昭和39年(1964)の10月には、東京オリンピックが開催されました。

各種競技の中でヨット競技が、整備された江の島ヨットハーバーを拠点に実施され、身近な海へのまなざしと共に、海から感受する刺激も、一層、変化に富んだものを実感するようになりました。オリンピック開催の翌年から、横浜港-江の島-伊豆大島の航路が開航し、毎日一便、さくら丸(東海汽船)にて往復運航され、入出港の汽笛信号の響きや、伊豆大島へ向けての航跡は、江ノ電や日坂、七里ヶ浜の様子とともに、心に浮かぶ一連の音入り景色です。

三年次の担任は宮入正夫先生(社会)、松林竹雄先生(国語)、阿部正道先生(社会)、奥津芳郎先生(社会)、川崎道夫先生(理科)、阿部正昭先生(理科)など、各教科を担当された先生方の強烈な個性は心に焼き付いております。その中でも、松林先生の授業で「舞姫(森鷗外)」に関して反芻する熟読玩味の時間は、とりわけ魅力を感じました。松林先生とは鎌校卒業後に、巡



草莽の星 Star in the field 162.1 x 162.1 cm

り合わせで師弟関係が進み、腰越のご自宅に幾度も芸術談義にお伺いしたことを懐かしく思い起こします。先生は、「徒然草」の奥底を考察された著作(小冊子)を複数出版されていらつしやいますが、その中の一冊「徒然草の道標」(平成3年1991)は、私が発行者にならせていただきました。

登校するある朝、鎌高前駅で江ノ電を降りた際、電車内の網棚に載せていた鞆を忘れて、手ぶらで歩き日坂の途中で思い出し(鎌ボケ)、慌てて江ノ電を追い掛けた事があります。違法ではありますが、線路内を韋駄天走りで追走した結果、腰越駅の先、江の島駅で追いつきました。鞆を手にし、ホーム反対側に停車し

ていた鎌倉行に、息遣い荒く乗り込んだ次第です。江ノ電にまつわる数々の珍体験は、今も鮮やかに思い出せます。

近年の鎌高へは、平成23年(2011)1月、24年(2012)2月と11月、26年(2014)1月に、講義・演習で伺いました。これは、文化庁にて採択された「次世代を担う子どもの文化芸術体験事業(派遣事業)」で、高校美術Ⅱ(2年生対象)の授業を、当時、美術担当の青木敦先生からのご依頼を受けて実施するに至りました。

また、平成28年(2016)1月には、「鎌倉高校卒業生による進路講演」のご依頼により、母校へ伺いましたが、一画家による拙い経験的法則は不十分な内容で、在校生の役には立てなかつたと反省いたしました。私自身が在学中の折々に、図書館で画集を開く時間にはいつも嬉しさが伴っておりましてので、後日、せめてもの思いから、収集していた美術専門書(和洋書)の多くを鎌高図書館へ寄贈させていただきました。

高校生活において、心惹かれ夢中になる自由研究の領域は別として、私の学業成績は全般的に曇天低迷な状態が続きました。

東京藝術大学

東京都台東区上野公園に位置する東京藝大美術学部絵画科日本画専攻に、一年間の浪人後、入学(1968)いたしました。同期入学は23名で現役入学者は3名でした(その後、卒業は18名)。大学卒業が前提条件では決してありませんが、芸術の道のりを辿るにあたって、「狭き門」「芸術は長く、人生は短し」の一端を感じました。学部卒業後、大学院修士課程に7名が進学しました。修了時点の藝大には、博士

後期課程の制度がまだ設置されておらず、日本画修士課程修了後、受験して壁画修士課程に入りました。政府給費留学生になることも意識にあり、プレスコ画法を研究課題とした取り組みを始めましたが、秋には、思い掛けず非常勤助手として日本画教官室の一員に迎えられるました。

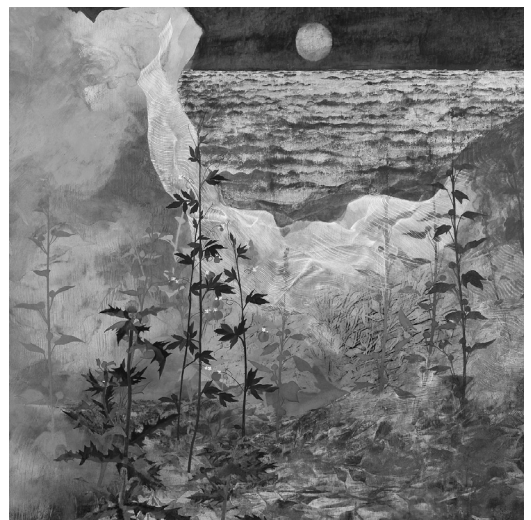
入学した当時は、ベトナム戦争(1960-75)に対する反戦運動や、学生運動(学園紛争1960年代末から1970年代初期)、中国におけるプロレタリア文化大革命(1966-1976)等々、社会的情勢には激しい動きがみられました。藝大内でも一時期、落ち着かなくなりしましたが、上野公園・東京国立博物館・国立科学博物館・国立西

洋美術館・東京文化会館・東京都美術館・上野動物園に、大学が隣接しており、自主研究の環境には大変恵まれておりました。

特に熱中した学科目は、西洋工芸史(友部直)、西洋美術史(新規矩男)、日本美術史(吉沢忠)、中国美術史特講(米澤嘉圃)、人体美学(西田正秋)、音楽(遠山一行)で、学術的にも錚々たる先生方がご担当でした。

日本画実技演習における指導教官は、学部は学年制で、大学院は研究室制でした。岩橋英遠、吉岡堅二、田中青坪、吉田善彦、稗田一穂、工藤甲人、平山郁夫、堀越保二、下田義寛、福井爽人の各先生方から厚いご指導を受け、大学院では、最も尊敬の念を抱く稗田教授の研究室に入ることができました。

学部4年間では、課題制作や古典模写、自由制作、卒業制作と取り組みましたが、学部2年次の東北写生旅行の一週間(残雪の青森八甲田山系・奥入瀬溪流・十和田湖)、3年次の古美術研究旅行の二週間(奈良・京都、飛鳥・白鳳・天平をはじめとする仏教美術、室町の水墨、桃山江戸の障壁画など)は、格別に印



廃園濃紫 Purple in forgotten garden
162.1 × 162.1 cm

象的な野外実習となりました。

思い出の中には、学部1年次に、担任の平山先生にご案内いただき、北鎌倉円覚寺近くの前田青邨先生のお住まいへクラスの仲間と伺ったことがあります。昭和24年(1949)に焼損した国宝・法隆寺金堂壁画の再現模写事業(1967-68)を安田鞞彦班、吉岡堅二班、橋本明治班と共に、前田班として実施された際の、理念と作業内容を拝聴いたしました。また、院生時代には、稗田先生が大学のアトリエにお招きした山本丘人、高山辰雄両先生による作品講評会は、得難い貴重な機会となり、心の底から奮起する思いが湧きました。

また、平木浮世絵財団リッカー美

術館開設(1972)当初の学芸員資格(1972-77)や、月岡栄貴氏(日本画家)の絵画教室助手(1974-79)になり、絵具代の足しにすることが出来たことは、乏しい中でも恵まれた画学生と言えそうです。

私の作品につきましては、学部卒業制作が大学買い上げとなり大学美術館に収蔵されました。院生の時に、「第37回新作協会展 日本画部」(1973)に初入選、大学院修了制作がサロン・ド・プランタン賞を受けました。また、「第一回創画展」(1974)、「春季創画展」(春季展賞1975)、「次代への日本画展」(日本橋高島屋・他巡回1981)、「第8回創画展」(創画会賞1981)、「第16回文化庁現代美術選抜展1982」、「第7回山種美術館賞展」優秀賞(山種美術館所蔵1983)等々：以降、研究制作と発表活動をささやかにではありますが、今日まで続けてまいりました。

大学院修了後

壁画大学院に入学して間もなく、ポンペイ遺跡(南イタリア)の秘儀荘(古代ローマ)を参考に、原寸大

の壁画を制作いたしました。その秋にはお誘いを受け、日本画教室の非常勤助手としての勤務が始まりました。

以来、常勤助手(1982)、専任講師(1983)、助教授(1994)、教授(2001-2016)として長座することとなり、画家と教育研究者の両面で経験を積んでまいりました。平成28年(2016)3月末に定年退任し、4月付けで名誉教授となりました。48年間も、台東区上野公園12-8の「上野の杜」へ、大学人として通い続けました。その間、私の知るところ、9名の後輩が鎌高から東京藝大美術学部へ入学していますが、音楽・美術など芸術文化の領域へ進む、あるいは興味を抱く鎌高生は、思いのほかに多いように感じ取っております。(財)日本航空協会「空の日芸術賞」により、派遣在外研修員として平成6年(1994)から翌年までの10ヶ月間、スイスの首都ベルンに本拠を構え、周辺12ヶ国の美術工芸事情を研究調査いたしました。海外での取材や講演の機会は多く、これまでに33ヶ国余りへの渡航で、その中には、トルコ共和国にて「Yunus Emre 芸術文化」展覧会出品及び講演、中華人民共和国にて「敦

煌研究院国際学術シンポジウム」講演、

「中日、二国間セミナー」

講演、広州美術学院、「中国における岩

彩画の動向」

北京中央美术学院、清華大

学、首都師範大学(科研・

日本学術振興会)、台湾にて「国立台北教育大学北師美術館」講演、東

海大学「第14回膠彩(日本画)創作研修会」講義・演習、ベルギーにて

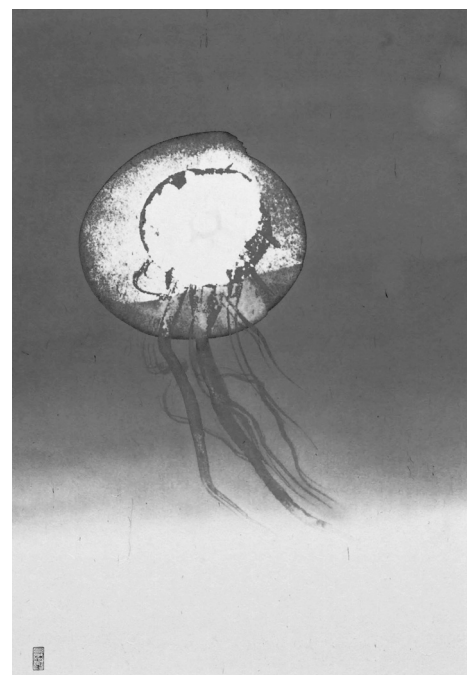
「中世絵画の研究及び写生取材」、タイにて「美術工芸を調査研究、及び

交流の渉外活動」国立シラパコーン大学、国立チェンマイ大学、オランダにて「墨絵」講義・演習 ライデ

ン大学招聘客員教授、「シーボルト・ハウス公開セミナー」講演(公財)

美術文化振興協会派遣：なども含まれております。

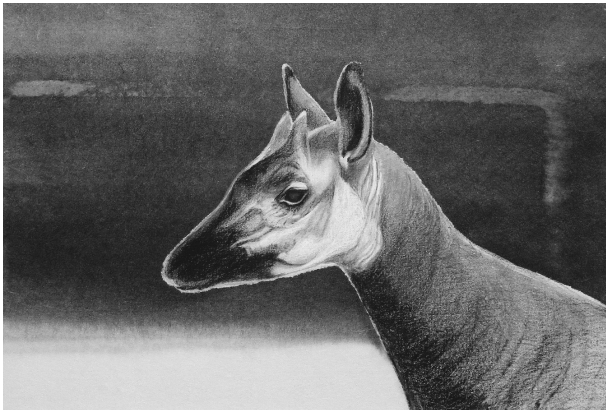
大学では、担当する日常の授業や評価と共に、毎年実施する学部・大学院の入学試験審査、卒業・修了制作の審査、博士学位申請論文・研究作品の審査(主査・副査)、研究紀要の査読、国費留学生の指導、国際



素描/海月 Jelly fish
53.0 × 35.5 cm

交流事業、大学運営に関する学内委員など、担う役割と責任の重さを痛感する日々でした。それに加えて、平成21年(2009)からは東京藝術大学美術館(大学美術館・陳列館・正木記念館・取手館)の館長に選任され、二期六年間兼務いたしました。

明治20年(1887)の東京美術学校設置に先立つ時期から、芸術資料の収集が始まり、現在、指定文化財(国宝・重文)22件を含む2万9千件余りを収蔵しております。「収集」「研究」「保存」「保管」「展示」「公開」「普及」の美術館活動と共に、制作と教育研究の現場である大学という特質を合わせた、実験的な機能を果たしていくことを基本理念として運営に努めました。定例の卒業・



素描/オカピ Okapi 35.5×53.0cm

修了制作展、博士公開審査展、コレクション展などの他に、毎年三本ほどの特別展を開催いたしますが、主に担当する学芸の教員陣は数年越しで企画内容の充実にあたり、あたかも命懸けで全力を尽くします。

一つの企画で入館者数が10万人を優に超える展覧会と、数の上では多くを期待できなくとも、学術的に重要な意義を含む研究成果の発表展示を交えます。いずれにしましても、成否の観点に関する信念が試されま

す。文化財・芸術資料の恒久的な保存には、温湿度や光（紫外線・赤外線）、および生物被害（虫菌害）や化学的汚染物質による損傷や劣化を避けるための環境管理、そして取扱いが要点となります。例えをあげれば、日本の古典絵画における支持体の多くは和紙や絵絹であり、その物性は、魅力とともに絵画組成においては脆弱であると言えるでしょう。表装に使う接着材は正麩糊（小麦粉澱粉）で、月日の経過とともにその接着力は弱まります。個々の状況によりですが、概して、ある間隔（100年程）毎に表装を解体し、更新することによって本体である和紙や絵絹を長く支え、貴重な実物が後世に伝えられていきます。その面においても文化財保存科学による分析と対処法や、保存修復の方針と専門技術の力量発揮がよりどころとなります。

担当する大学院の日本画研究室では、制作と講習会とともに、絵画組成の技法・材料に関する研究ゼミと写生実習や、陳列館での展示を継続的に実施いたしました。修士・博士の院生や助手とともに、東京大学三崎臨海実験所の施設を利用して、磯で採取した生物の写生観察を行い、また、大学の第二校地（茨城県取手市）の構内に日本画実験園を設け、

手漉き和紙素材（楮・三桮・雁皮・梶の木・桑・真弓）、抄紙ネリ材（糊空木・トロロアオイ・銀梅草）、天然染料素材（梶子・鬱金・夜叉五倍子・梶・蘘）、板絵下地研磨材（木賊・椋木）等々、多様な植物を長年にわたり植栽し、生きた実物標本の観察場として活用してまいりました。オオズメバチが時に飛び交い、ママシの出没情報を耳にする中、夏季の除草ほか、慣れない手入れには困難がありました。

受託研究として、日本画用和紙抄造の各地手漉き工房へ出掛け、或いは抄紙用具（簀・桁・刷毛）を造る匠の話や聴き、原材料となる楮・三桮などを中山間地の限界集落で育てる長老の村人を訪ね、その厳しい現況を報告書に纏めました。

また、日本画制作で、顔料（群青・緑青・朱・辰砂・胡粉・墨など）の定着に用いる膠（コラーゲンを含むゼラチンを主成分とする繊維性の蛋白質で高分子）は可逆性と保湿性のある素材で、澱粉糊・漆・アスファルトなどとともに古来使われてきた有用な接着剤ですが、旧来の三千年本膠（牛皮由来）を製造する家内手工業所は近年全て廃業となりました。

現代社会の需給に関する経済競争原理によって時代から消え去ったのですが、和膠の、弱点を含めた特性

には捨てがたい魅力があり、ゼラチン、コラーゲンペプチドを量産する大手企業に直接働きかけた結果、新規和膠「飛鳥」を共同開発し、品質を維持しつつ恒常的に世に出すことが叶いました。

大学の職を離れた現在も、以前に期待を抱いていたような絵画制作三昧の静かな日々とはならず、美術文化振興の一環として、国際文化交流に連なる作業に今なお微力を注いでおります。そのような暮らしにあっても、平素から心を占めるのは、「みづからの造形活動における、発想と絵画表現（技法・材料）を終生、探究すること」です。



素描/カイツブリ Little grebe 35.5×53.0cm

プロフィール

関 出 (日本画家)

東京藝術大学名誉教授
公益財団法人
美術文化振興協会常務理事

東京藝術大学大学院修士課程修了。東京藝術大学教授、同大学美術館館長を歴任。

尾道市立大学大学院美術研究科非常勤講師(集中演習2005-2015)、多摩美術大学造形表現学部造形学科非常勤講師(通年2006-、2016-2017客員教授)、東海大学(台湾)(集中演習)、広島市立大学大学院非常勤講師(集中講義)、倉敷芸術科学大学芸術学部非常勤講師(集中講義)、ライデン大学(オランダ)客員教授を歴任。

会員(現)..
一般財団法人東方学会、一般社団法人日本接着学会、一般社団法人文化財保存修復学会、日本鉱物科学会、公益社団法人日本モンゴル協会、公益財団法人文化財虫害研究所、一般社団法人日本美術家連盟。

委員(歴任)..
教科用図書検定調査審議会委員(文部科学省)、大学評価・学位授与機構学位審査会専門委員、大学設置・学校法人審議会専門委員(文部科学省)、社団法人東京国立博物館協力会理事、ほか。

受託研究および報告書など
(東京藝術大学附属図書館蔵)
「絵画用紙の諸相とその發揮について」(研究代表・関)(株)小津商店
「中国における「岩彩画」の登場と戦後日本画のメチエ」(研究代表・関)(独)日本学術振興会
「新規三千本膠・飛鳥」共同開発研究(製法および物性調査・旭陽化学工業株式会社)、
「チヨウザメの浮袋(鰓)によるアイシンググラスの製法研究」(研究代表・関)(株)フジキン、
「チヨウザメ(浮袋)からのアイシンググラス試作評価」(研究代表・関)(独)科学技術振興機構、
「竹紙の絵画用紙としての改質研究」(研究代表・関)中越パルプ工業株式会社、
「美術家の健康と安全」ハンドブック 共同編集(日本画部門委員・関)発行..一般社団法人日本美術家連盟、など。



鎌高・美術部 徽章 (KAMAKO ART CLUB) 1965年頃

私のお店紹介

ハウスオブポタリー(鎌倉山)

27回生 (S51年卒)

荻野 洋子さん
(旧姓:中村)



英国カントリースタイルを提唱する英国直輸入のアンティークや雑貨販売、カフェ、ギャラリー、建築設計事務所

鎌倉山ロータリーから坂を上がつてすぐがハウスオブポタリーです。1階には食器や服飾小物、インテリアグッズが並び、2階は鎌倉山の眺望を楽しめるカフェ。別棟のギャラリーでは音楽会や展示会、クラフト講座、ティーセミナーなども開催しています。また2級建築士の資格を持つ荻野さん自身が手掛ける建築設計事務所では、家、庭、内装の設計・施工を実施。オンラインショップも展開。



荻野さんは外語短大卒業後、憧れの英国に留学、ケンブリッジのカレッジで英語と英国カントリースタイルのガーデニングやインテリアを学びました。帰国後、商社で働き資金を貯め、英国陶器の輸入卸売から仕事を始め、全国の小売店に陶器を販売しました。その後平成7年から鎌倉山に店舗を構え、仕事の傍らにさらにガーデニングや建築を学び、

建築士の資格を取得しました。「好きな事だから突っ走ってきたが、失敗もたくさんしました。非があれば認め、対策を取るのがモットーです」。

始めた頃は雑貨ブームでしたが、経済の変化やインターネットの普及で今は設計・施工が業務の中心。全国の英国カントリースタイルファンから新築・改装、ガーデン設計などの発注が入るそうです。モノを売るだけでなくライフスタイルを広めたい、という荻野さんの思いが実現しています。

荻野さんに鎌高で得たものを探ねると、「鎌高生は美しい環境に育まれていたせいか皆優しかった。そのお陰で人は信頼するもの、と思えるようになりました。また、自然を愛する心が根付きました。鎌高生だったおかげでその後もいい人、いい環境に恵まれました」と語ってくれました。

敷地内では花苗も販売、カフェのベランダにも草花が育ち、四季の自然と融和した鎌倉山の憩いの場、小さな英国です。

株式会社 ハウスオブポタリー

〒248-1003-1
鎌倉市鎌倉山3-17-127
(鎌倉山バス停よりさくら道を上がり、約2分)

TEL: 0467-13210109
ギャラリーのみ月曜定休
(文 S51年卒 奥村 砂智子)



在職中の鎌高の思い出

鎌倉高校の思い出

木浪 信之 (元理科)

私は平成17年4月に着任してから、今年3月に定年退職するまでの13年間を鎌高で過ごしました。鎌高の思い出が数限りなくあるのは、自分のしてきたことが点となり、それらが互いにつながって、多くの出会いがあったからだと思っています。在職中のエピソードをいくつか述べてみたいと思います。

着任してすぐに始めたのはオリジナルの教材を使った物理補習でした。着任した年ということもあり、柄にもなく気合を入れて厳しい授業を行いました。午前中から始めた補習を夕方まで連続して続けたこともありましたが、生徒にしてみれば、たまったもんじゃなかったでしょう。いまだつたら、誰も参加しないかもしれません(笑)。

その後、平成19年からは研究支援を受けて、融合型教育実践の取り組みを始めました。この頃から実験を重視して行うようになりましたが、時間超過することは相変わらず時々あって、ある休日の早朝に始めた実験は下校時間になっても終了せず、

夜7時半の夜間警備時間の直前までかかったことがあります。大慌てで職員玄関に行き、生徒を連れて警備員さんと一緒に学校を出たこともあります。あと少し遅れたら生徒とともに学校内に閉じ込められるところでした。このことも、いまだはい思い出です。

数年前、たたら製鉄の研究で地学実験室を使用するの機会に、居室を地学準備室に移動しました。自分の席に着いて窓に目をやると江ノ島と海、その向こうには伊豆半島が見えました。毎日飽かずに眺めた鎌高からの景色は忘れることのできない思い出です。困難に出くわしたり行き詰まりを感じると、窓から見える素晴らしい景色に励まされたり、さまざまなアイデアが浮かんだことがあります。

たたら製鉄の研究では、原料となる鎌倉砂鉄の密度を選鉱によってうまく高められないことが原因で思い通りに鉄がつかれないことがありました。この問題の解決のために、放課後になると夕日の差し込む地学実験室で生徒たちと議論を重ね、試行錯誤を繰り返して克服することができました。

10年以上も前のことですが、生徒たちに大学入試問題の熱力学や単振動、さらには光波の反射で生じる位

相のずれの説明をダイヤグラムで示したとき、(わかりやすいと?)大反響があったのはB棟3階の教室でした。このとき思いついたダイヤグラムや描画はその後の物理の授業でも描き続けたので、私の物理を受講した生徒には忘れたくても忘れられないシーンとなった人もいるのではないかと思います。鎌高にいれば、なんでこんないろいろなことが思いつくんだろうと考えたとき、物理学者デリラックの言葉を思い出しました。「最良のアイデアが思い浮かぶのは、必死にそれを追いついていくときではなく、くつろいだ状態の時である」。鎌高はそういう場所なんだなと何度思ったことでしょうか。

私は学生時代に鉄金属化合物の研究をしていたので、稲村ヶ崎海岸の砂鉄を見たとき、鎌高に不思議な縁を感じました。もし、私が鉄の研究をしていなかったら、鎌高でたたら製鉄をすることはなかったと思います。また、私が鎌高に着任することがなかったら、鎌高でたたら製鉄が行われることはなかったでしょう。

私たちはいまの行動が後の自分の人生につながるかどうか知ることとはできません。縁があるのかなとか、役に立つとか立たないとか、そういうことは後になって気

づくことであって、いまは何もわからないのです。それでも鎌高は私に粋な計らいをしてくれたと思っています。

最後になりますが、鎌高の13年間では授業をはじめとして、物理補習やたたら製鉄、学級担任をすることで多くの生徒に出会うことができた。このようにつながりがあったけれど、心を豊かにしてくれたか、言葉で言い表すことはできません。鎌高関係者だったら分かると思いますが、鎌高とつばやいたとき、心に蘇る特別な感情が私の鎌倉高校の思い出です。



2018/2/27(京都駅) 鎌高たたら製鉄を手伝に来てくれた卒業生と

同窓会・クラス会を開催しています

鎌高サンサン会

(第九期ゴルフ同好会)

コンペ100回に達す

9 回生 (S33 年卒)

事務担当 片山 秀人

私達、昭和33年卒業の第九期生は、還暦大会(同期会)を平成12年5月に江の島は旅館・岩本楼で開催。一泊二日の集いの中で、同期のゴルフ会をやるうという声上がりりました。

仲間のうち、サラリーマンは大方仕事を終え、個人経営の者も少し余裕が出てきた項で「遊びをせんとや生まれけん」とばかり早速話は纏りました。

鎌高サンサン会と名付け、第一回コンペは同年6月伊東パークゴルフ(現在はゴールド川奈CC)にて開催されました。

登録会員は最大25名に上り、はじめは隔月、その後は月一(厳冬期を除き)コンペが開催されました。(平成20年の潮会報第27号同窓会欄にも関連記述あり)

最盛期は毎回4〜5組10数名が集い、すきなことを言い合える気の置けない同期のゴルフを堪能し

ました。

腕前はシングル並みから百獣の王までかなりバラつき、毎回の珍プレーに話題が尽きず、和気あいあいと年齢を忘れて楽しみました。以来17年(この間ホールインワンも2回達成)、既に鬼籍に入った仲間達もいて、時に風神雷神となつて雲の上から観戦していることでしょう。ともあれ雨の日、風の日、霧の中も厭わずよくも続けてきたものです。

平成29年4月26日の箱根湖畔ゴルフ倶楽部でのコンペをもつて第100回を数えました。会員の年齢は78歳と、体調整わぬ仲間が多くなり、常時参加できるものは10名を切りました。

この頃は外郭にメンバーの奥様やその友人など、ご婦人方も参加され、また格別の賑やかな催しとなっております。

とかく年齢を重ねると運動量が減り体力が落ちてきますが、恵まれた自然の中で思い切り身体を動かし。いつもの仲間達とまたゴルフをしたいの一心で、体調を整え練習をすることが、喜寿を超えた身体の健康維持に大きな力となっているのでしよう。

「実年齢より10歳以上若いよ」と

周囲からおだてられ益々意気軒昂。中にはエイジシューター目前のものもいて、幾つまでプレーができるか最長不倒を競おうと皆頑張っています。



箱根湖畔ゴルフ倶楽部にて

昭和41年卒 古希の会

17 回生 (S41 年卒)

幹事代表 深澤 隆史

団塊の世代、昭和22年生まれの私たちも、古希を迎える年となりました。41年卒の17回生は416名、住所等が判明している方327名に古希の会の案内状を出し、内、136名の方から参加の連絡を頂きました(当日欠席4名)。残念ながら、分かっていただけで、既に42名の方が

鬼籍に入られております。

平成29年11月11日(土)に、藤沢駅前の「ミナパーク」で開催しました。毎年、クラス会を行っているクラスもあれば、卒業以来、初めてというクラスもあり、久方ぶりの再会に大きな歓声に溢れました。

当時の恩師、神川先生、福井先生も元気なお姿で出席を頂き、思い出話に花が咲きました。

古希の会の前に、希望者を募り、鎌高見学ツアーを開催しました。35名の方が参加し、教頭先生から大きく変貌した鎌高の今の姿を説明頂き、あらためて、当時の思い出に浸る事が出来ました。学校見学に参加出来なかつた方の為に、幹事が、事前に撮影した今の鎌高の姿も写され、食い入るように見ておられる方も居られました。

会場では、当時の写真が映像に写され、若き頃の姿、自らの姿に、苦笑いし、厚顔の美少年、美少女であった事を思い出しました。年とともに日常では、もの忘れが多くなりますが、高校時代の話を始めると、脳が活性化し、色々な事が思い出されます。不思議ですね!

既に卒業から半世紀経ち、咄嗟には名前が出てこない方が居られますが、例えば、同じ学び舎で学んだ者同士、忽ち、当時の鎌高生になり、会話の輪がどんどんと広がります。

身も心も鎌高生になり、最後は、皆で大きな声で校歌を斉唱し、あっという間の3時間でした。

次は喜寿と言う話ですが、古希を迎えるともなると、何時までも生きられるか判らないから、5年後に再会しようと呼び、元気で、健康でいられる事を願いつつ、散会しました。うしお会からの同窓会応援金を活用させて頂きました。

当日の写真は、うしお会のホームページに掲載されていますのでご覧ください。

昭和37年卒33組は元気です

13回生 (S37年卒)

幹事代表 秋元 康男

私たちは、昭和37年(1962年)に卒業、生徒52人うち女子生徒が12人(男子生徒ばかりのクラスがあつた中で、少人数ではあつても女子生徒がいる少し恵まれていた)33組の生徒でした。卒業から55年を過ぎましたが、鎌倉で3カ月毎に有志が集まっては話に花を咲かせています。毎回、20人前後が16時頃から三々五々集まり、20時ごろまで食べて、飲んでしゃべります。もう、これが5年以上も続いています。これも、幹事役兼場所提供者T君の犠牲的活動があつてこそと、クラス全員

感謝の気持ちで一杯です。人生74年のうちわずか3年の間、しかもクラスとしては2、3年生の2年間、人生のわずか2.7%の間に築いた友人関係です。このように頻りにクラス会を開くのはすごいことと我ながら感心しています。

高校時代は、非常に多感な時期でしたが、お互いあまり深刻に将来について語り合うようなこともなく、進学・就職等の進路に干渉しない傾向がありました。ですから、鎌高卒業後の進路を聞いて、どこでそんな勉強をしていたのか不思議に思つたほど、実は優秀な生徒だったので。担任は国語の石渡英雄先生。数学の石井先生、英語の福井先生、音楽の牧野先生など、個性ある先生方が熱情的に教育されたのに、生徒はマイペースを決め込む者が多数派でした。クラブ活動が盛んで、テニス、サッカー、相撲といった運動部、私が所属していた合唱部等の文化部ともに県内のみならず、関東・全国と活躍し、また、専門学部へ進学しプロの道に進む者など、多様な人材がいました。また、33組ばかりではなく、全般的に女子生徒の方が男子生徒より出来が良く(当然、先生方の評価も高く)、少人数ながらも彼女たちの存在感は大きいものであります。

そのような環境の中で、クラス全

員でワイワイやったのは運動会の仮装行列、全校クラス対抗合唱コンクールで何れも優秀賞をもらった時ぐらいであったと記憶しています。このような賞をもらったということは、当時からまとまりのよいクラスだったのでしよう。

今は、3カ月毎に集まっても老人特有の健康・孫などの話はほとんどしません。鎌高時代のことを中心にした話題、世相を反映した話題など、男女分け隔てなく、アルコールの力も借りて様々なことを話します。お互いに夫々が歩んできた人生経験といったものがにじみ出てくるのを、会話や動作といったもので感じ取ることができるとは、

残念ながら、既に鬼籍に入ってしまった人も数人いますから、「いつ死ぬか分からないのだからクラス会を早くやれ(こんなことを言う者ほど長生きするのが常ですが)」という声もあり、この有志の会とは別に公式(?)のクラス会を1、2年毎に幹事を決めて行っています。このときは、遠隔地に住んでいる者も参加します。いつまでこの会を開けるか分かりませんが、一回、一回を大事にしていきたい、また、できる限り長く続けていきたいと思っております。

この寄稿文を書くにあたり、他のクラス、年度が近いOBや、クラブ

活動で共に活躍した諸君と連絡をしあえる一助となれば幸甚であります。また、「潮会」がますます卒業生にとつて、情報交換ばかりでなく、心の拠り所となりますよう、発展を祈念いたします。



2017.2. KAMAKURAにて

鎌倉高校野球部OG会

(マネージャー会)

59回生 (H20年卒)

幹事代表 窪田 恭子

平成29年10月に、始めての鎌倉高校野球部OG会(マネージャー会)を開催いたしました。



野球部 OG 会

きっかけはOB戦70周年記念大会のときに「OG会をしてみたい」という先生のひとことでした。その後幹事で話し合いを繰り返し、発足から現役までのマネージャー約60名全員とつながり、開催のお知らせを伝えることができました。当日は、マネージャーだけでなく歴代の先生方やOBの方も参加してくださり、懐かしいひと時を過ごしました。当時の写真をまとめたスライドショーやクイズ、事前に行ったマネージャー時代などに関するアンケート結果発表も企画し、会は大いに盛り上がりました。

今後もしもこの活動を継続していきたいと思えます。

うしお会では皆様の同窓会を応援します

うしお会地方開催

参加者100名を超えると思われる学年同窓会、または部活動OB・OG会の開催につきましては、応援金として20,000円、50名から100名の場合は10,000円を寄付致します。

幹事の方は、予め開催する旨、日時会場などをうしお会ホームページに掲載申し込みしてください。

尚、開催報告として数枚の写真とコメントを後日お送りください。ホームページまたは会報誌「うしお」に掲載させていただくことをご了承ください。

お申込み ……………

うしお会ホームページからメールフォームでお申し込みください。

受取方法 ……………

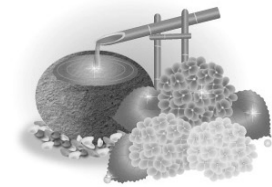
開催日前日までに幹事さんが来校していただきます。

※また、名簿、会場（うしお会会員が経営する店舗）などもご案内することが可能ですので、ご相談ください。

昨年の会報「うしお」の発行部数は、約17,000部でした。と言うことは、うしおの会員が全国に約17,000名いると言うことです。

当然の事ですが、年々会員は増えていきます。この中には、地方で生活をされている会員の方が多くおられます。同じ鎌高卒業生として、その地域でうしお会を育てて頂くこともできるのではないのでしょうか。うしお会事務局は、各地域での開催を応援いたします。同窓会開催計画を事務局に連絡頂き、打合せ後、事務局にて案内を送りたいします。個人情報に十分な注意をした対応をさせていただきます。

先ずはご相談を。



会報誌「うしお」 編集者からお願い

年に一度発行しています会報誌「うしお」の戻りが約500部あります。これは事務局に登録されている住所が古い事に起因しています。また、住所が事務局に登録されていない為、会報誌「うしお」自体が届いていないケースもあります。

ここで、うしお会の皆様にお願ひがあります。鎌高のクラス会や同窓会等に出席された時、一度会報誌「うしお」が届いているかを出席されている方々に確認して下さい。

もし届いていない方がおりましたら氏名、郵便番号、住所を書いてもらい、それを同窓会「うしお会」事務局までファックスを送って下さい。

皆様のご協力をお願い致します。

四国八十八ヶ所巡り (付下手な川柳)

4回生 (S28年卒)

中田 聰

は体調を整えて待つだけでした。

①はじめに

それ程信心深くもない私がお寺巡りをするなど考えてもいなかったが、昭和47年父を亡くした時、(父の実家が真言宗だった事で)墓地を探して檀家になったのが茅ヶ崎の金剛院(高野山真言宗)と言う寺だった。後で知ったのですが金剛院の住職は鎌高の五年後輩33年卒の真柴明典師です。

現在は名誉住職で権大僧正、息子さんが住職です。

昭和32年入社、平成6年退社するまで38年間土木現場で終始した私ですが、(特に退職後)その縁で「佛教の本・空海の書物」をあさり30冊程も読んだ。と言う所で『一度四国八十八ヶ所巡りを』の気持ちで醸成されたと思います。

仲々実行に移せず80歳の声を聞いてから「バス遍路」の案内を旅行会社から聞き、もっと若ければ「歩き遍路」もあつただろうが、この年で行けるのはこれしかないと思ひました。5日間づつ3回に分けて『八十八ヶ寺+高野山参拝』のプランです。2月に旅行会社の説明会を聞き、そこそこ払える金額なので後

②第一回

平成27年4月13日~17日

(1番 霊山寺~36番 青龍寺)

◇13日 羽田から空路高松空港へ、四十人乗りの大型バスで発心堂(香川県、巡拝用品屋)ここで白衣・金剛杖、輪袈裟他を整え、朱印帳の人もあるが私は掛軸に八十八ヶ所の御朱印を貰う事にした。朱印は添乗員さんが各寺で戴いてくれる。

1番 霊山寺へ(徳島県) 本堂と大師堂の二ヶ所をお参りし、一ヶ所に付き蠟燭1本と線香3本を立て納札(おさめふだ:願文を書く、一般には「家内安全」とか特にあればその主意)を納め、先達に従いお経を唱える。

本堂の場合はそのご本尊の御真言をプラスして唱える。(のうまくさんまんだ:とか、おんころころせんだり:とか、おんあびらうんけん:とか等

へんろ旅八十爺の凡修行

三十四

(柳名は1934年生まれで本名「さとし」のため付けました)一行

12名プラス先達さん(女性)、旅行会社の添乗員(女性)との14名(男6女8)の遍路が始まりました。

口には言いませんが、子供を亡くされた、妻に先立たれた等皆さんそれぞれ事情を抱えて来ておられ、逆縁の方が多いようでした。

その方々に比べ、八十歳で両親の冥福の為という私は幸せだと思ひました。

経巡って親の菩提の為祈る

三十四

2番 極楽寺(寺内の食堂にて昼食) 3番 金泉寺 4番 大日寺 5番 地藏寺 8番 熊谷寺 7番 十楽寺 6番 安楽寺と参拝。

坂と段バス遍路でも難儀する

三十四

バスを降りてからお寺迄階段を登るだけでも仲々きついものでした。

6番 安楽寺参拝後その僧坊で宿泊。夕食にお酒を頂く。

翌朝は朝のお勤めに参加する(開経偈 般若心経 回向文、各寺参拝時と同じ本堂と大師堂の2ヶ所)

◇14日 安楽寺発 9番 法輪寺 10番 切幡寺 山坂がきつく道が狭い為マイクロバスに乗り換えて、11番 藤井寺 12番 焼山寺 13番 大日寺(同名の寺3ヶ寺あり) 14番 常楽寺 14番 常楽寺

寺 15番 国分寺(同名の寺4ヶ寺あり) 16番 観音寺 17番 井戸寺 徳島グランドホテル泊。(夜阿波おどり《常設》を観覧にいった人も居た)

◇15日 ホテル発 18番 恩山寺 19番 立江寺 20番 鶴林寺(白衣に鶴の朱印を貰う) 21番 太龍寺(ロープウェイで行く、お接待の茶・菓を頂く、外国の人多く見掛ける) 22番 平等寺 23番 薬王寺 番外 鱈大師(暗い中1仏づつお参りし賽銭を供えるが百八体以上の仏像があり、お賽銭が無くなる)

お賽銭切れてお詫びの手を合わす

三十四

お賽銭の話であるが、八十八ヶ寺のうち数ヶ寺では数百円~千円分袋に入れた小銭(1円、5円、10円玉混合)のセルフの両替があつた。なご地呂温泉 遊遊 泊。

◇16日 遊遊 発(高知県) 室戸御厨人窟(弘法大師修行悟りを開いた洞穴) 24番 長御崎寺 25番 津照寺 26番 金剛頂寺 27番 神峰寺 28番 大日寺 29番 国分寺 30番 善楽寺 高知 土佐御苑 泊 皿鉢料理出る。

心経も嗜んだり偶に好調子

三十四



34 番種間寺境内で本田先達と

◇17日 ホテル発 31番竹林寺 32番禅師峰寺 33番雪蹊寺 36番青龍寺 (大相撲の朝青龍はこの寺の石段で鍛えたとか) 35番清滝寺 34番種間寺 道の駅で土産物購入し高知空港へ (厳しくご指導を頂いた本田先達さんとはお別れ) 羽田へ、寝食を共にした12人、添乗員とはお別れする。
 以上で第一回の5日間36ヶ寺終了。

3 第二回

平成27年5月11日 15日

◇11日 羽田から空路高知空港へ、先達 (女性)・添乗員 (男性) は変わる、1回目と同じ人が5人居て、13人プラス2人全15名 (男6女9) がバスで37番岩本寺へ、参拝後寺内の食堂にて昼食 39番延光寺 (白衣に亀の朱印を貰う)

38番金剛福寺 足摺岬観光 (中浜万次郎の銅像他) 足摺温泉泉際ホテル泊。
 鶴・亀の両印揃う (朱) 足摺ホテルで白衣の朱肉を乾燥。

足摺の宿で亀鶴の朱印干す

三十四



白衣

◇12日 ホテル発 40番観自在寺 バス長時間、お寺の間隔長し、宇和島観光ホテルにて昼食 (鯛茶漬) 41番龍光寺 42番仏木寺 43番明石寺 番外十夜ヶ橋 (寝大師) 47番八坂寺 雨中歩き遍路 46番浄瑠璃寺 昔ながらの遍路宿 長珍屋 (ちようちゃんや) 泊。

白黒に 緑赤銀 金錦

三十四

納札の箱を見て詠んだもので最初は白黒の札 (私はまだこれである、裏に住所氏名、家内安全他を書

く) 5回以上は緑の札、8回以上は赤、10回以上は銀、20回以上は金で30回以上は錦の納札を使えるそうである。(言う人によつて数字は異なるが) 赤、緑は多々あったが、現実に納札の錦を見て感嘆しました。30回以上も八十八ヶ所巡りをしたと考えると気の遠くなる思いがします。

◇13日 遍路宿発 45番岩屋寺 44番大宝寺 48番西林寺 昼食開花亭 (ぶっかけうどんと御飯) 49番浄土寺 50番繁多寺 51番石手寺 53番円明寺

百回を過ぎて線香つまく立ち

三十四

50ヶ寺以上巡り百回以上の線香を供えると、綺麗に立てられるようになったと先達さんから褒められた。

52番太山寺 道後温泉宝荘ホテル泊。夜の屋上露天風呂から松山城を見る。

◇14日 ホテル発 61番香園寺 62番宝寿寺 63番吉祥寺 64番前神寺 60番横峰寺 昼食りんりん (握り寿司、うどん) 四国うどんの名産地らしくバスの車窓から黄色に染る麦畑を見る。58番仙遊寺 57番榮福寺 56番泰山寺 54番延明寺 55番南光坊 (寺の付かない2寺) 今治国際ホテル泊。
 ◇15日 ホテル発 59番国分寺 65番三角寺 68番神恵院 (寺の付かない2寺) 69番観音寺 昼食琴

弾廻廊 (釜飯) 70番本山寺 67番大興寺 (ここまで愛媛県) ロープウェイ (徳島県) 66番雲辺寺 (かけ離れた県境にある) 高松空港 羽田。以上で第2回の5日間34ヶ寺終、累計70ヶ寺。

4 第三回

平成27年6月11日 15日

(71番弥谷寺 88番大窪寺と1番霊山寺 《打戻し》 高野山)

◇11日 羽田から空路高知空港へ、先達 (女性)・添乗員 (男性) は変わる、1回目と同じ人4人、2回目と同じ人6人居て全16+2名 (男6女12) がバスで (香川県) 71番弥谷寺へ (山道険し) 昼食ひろや (大椀料理) 73番出釈迦寺 (大師7歳にして崖より投身無事だったと言う伝説あり) 72 73間歩き遍路 72番曼陀羅寺 74



72~73間歩き遍路 奥の山は投身場所



志度寺

番甲山寺〜76番金倉寺〜75番善通寺〜宿坊に泊。

善通寺大境内は佐伯城

三十四

大師は豪族佐伯一族の御曹司、その屋敷跡を善通寺とした。真闇の戒壇巡り

善通寺大師産屋の下巡る

三十四

◇12日 朝お勤めする、善通寺宿坊 発〜77番道隆寺〜78番郷照寺〜79番天皇寺〜80番国分寺〜昼食（はりはり鍋）〜83番一宮寺〜82番根香寺〜81番白峰寺〜さぬぎ五色台 休暇村泊。

◇13日 休暇村ホテル発〜84番屋島寺〜ケーブルカーにて〜85番八栗

寺〜86番志度寺（閻魔堂開帳）〜87番長尾寺〜昼食うどん、火薬飯。

閻魔様と死渡の決辺で対面す

三十四

いよいよ最後の〜88番大窪寺へ到着。参拝の後大師堂で寺宝の錫杖にてお祓いを受け結願証書を頂く。結願者十六人内三回共一緒の人4人。

大窪寺で白寿の人と結願す

三十四

99歳だと言う人が車椅子で参拝しており握手する。何か力が抜けたようになりひとりでに涙が湧いてきた。以上で第三回の5日間の内3日で18ヶ寺が終了、累計88ヶ寺。

戒も律も守らず俗の修行終う

三十四

飲酒肉食しながら巡ったのに。

身も心も生まれ変われず俗のまま

三十四

〜鳴門橋を渡り南淡路ロイヤルホテル泊。（肉・刺身・酒の夕食）

◇14日 ホテル発〜1番霊山寺（打戻し一周完了）〜徳島港〜フェリーにて和歌山港〜慈尊院（別格、大師ご母堂を祀る寺）〜高野山へ登る。大師教会にて菩薩戒を受ける。



青葉まつりパレード大師ねぶた

◇15日 天徳院本堂にて朝のお勤め後 宿坊発〜奥の院へ中の橋より徒歩見学、後満願報告〜金堂、根本大塔、御影堂、霊宝館、金剛峯寺見学。

この靈気大師のおわす奥の院

三十四



同行16人満願報告 奥の院へ向かう

折しも高野山は「青葉まつり」でパレード等の催物が行われていた。

青葉まつり高野の冷氣暖まる

三十四

朱印の軸装仕立てを注文、他土産物購入し帰路 堺、大阪を経て伊丹空港より羽田へ。

5 おわりに

写真は沢山撮りました、昔と違ってフィルムではないので惜しげなく1200枚以上写して見ながら振り返り作句をしました。

遍路後の感想は、いい年をして未熟さは変わらず、進歩せず、青いままですが「凡人にはなったのかな？」と思っております。

超人の遍照御跡巡り終う

三十四

へんろ旅終え杖の先 ささくれ

三十四

終了まで、健康を害さず、達成出来ました事、お大師様に感謝致します。拙い退屈な文をお読み頂きありがとうございました。（了）

在学期間僅か2学期間の卒業生

4回生（S28年卒）

門田 文宏

私は昭和27（1952）年の夏休み中に阿波の徳島から流れ着き、翌

年の3月に卒業証書を頂いたのですから、僅か2学期間しか在学しなかった―おそらく神奈川県立鎌倉高等学校の歴史に残ると申しては大袈裟ですが、在学期間が最も短かった卒業生だと思います。校長は城所福之助先生。当時、グラウンドは石ころだらけ、職員室の暖房は石炭ストーブという、開拓途上の学校でした。

当時は朝鮮戦争中で、徳島は戦場に近かった分、きな臭い雰囲気があったよって、国連軍が釜山に追い詰められて「ダンケルクの悲劇の再現」が恐れられた頃は、対岸の火事では済まない恐怖を感じていました。言うなれば、NHKの職員だった父の転勤を幸い、東日本に逃げて来た「難民」みたいなもの…と言われても仕方なかったでしょう。

編入試験は、生意気盛りでしたから《どうせ入れて貰えるのだから》

と、あまり真面目に答案を書かなかったので、ひどい成績でした。城所先生には「要注意の学力」という印象を持たれてしまった程の。

日本は、まだ「戦後」で貧しい時代。父はNHK東京勤務なのに、焼け跡も残っている時代で、社宅がない。材木座にあったNHKの海の家が社宅代わりで、足掛け2年間、材木座に住みました。横須賀に米海軍の基地があるので、夏は進駐軍と親しいご婦人たちがビキニの水着で闊歩していたり、砂浜に干してある漁網の上をジープで遠慮なく走るGI（現在は使われない俗語ですが、「官給品」の意味で、兵隊さんのこと）がいたり、感じは良くなかったですね。海水浴シーズンに上官の「別宅」に遊びに来て大いに飲んだ末、泳げないのにボートで沖に出て飛び込んだり浮いてこない水兵さんがいて、大騒ぎになったことがあります。現在の海上自衛隊には、『丸』誌に元・3等海尉の時武ぼたん（本名小菅千春）氏が連載記事『おちこぼれウェーブの航海日誌・ぼたんが

キラリ』に書いておられるように、泳げない隊員もおられるらしいのですが、昭和ヒトケタ世代の私には、「泳げない水兵サン」なんて信じられず、捜索中に一服していたフロツグマンに「彼は潜水艦の乗組員ですか？」と訊ねたところ、大真面目に「いや、空母の乗組員だ」という答えが返ってきた… などというカルチャーショックも経験しました。

3年生の2学期が始まりました。私がいた2組にはお金持ちで「個性派」の生徒が多かったようで、自習時間は賑やかだし、午前中に弁当を平らげて昼休みには日坂の停車場近くの屋台店でコロツケを調達して来たり、山猿同然の田舎っぺで変わり者の私から見たら、別世界。私は貧乏学生ですから、大学に進みたかったら国立大学（当時は、赤門のT大学の学費は、驚いて下さい。年間6,000円でした）しか道はない。当然、一所懸命受験勉強に励むことになります。徳島にいた頃は英語が弱かったので、まとまった長文を読みたくなり、A・ハックスレーのエッセイなどを読んだりしていました。

社会科の奥津先生には、「受験勉強用の世界史以外の歴史学がある」

ことを教わり、中世ゲルマンの叙事詩『ニーベルングンの歌』のお話を承り（相良守峯先生の名訳に接し、R・ヴァークナーの『指輪』と、少し違うな…と疑問を持ち、夏目漱石や寺田寅彦も読んでいた北歐神話が元の話であることを知り、少々深入りする原因になりました）、その後の私の感性が磨かれたのは、多くは鎌倉高校の2学期間のお蔭であったような気がします。

少し慣れて来ると、他のクラスも見えて来るもので、5組に凄い秀才君がいることに気付きました。児島次夫君です。田舎の高校ではあっても、私が2年半学んだ徳島県立城東高校は受験校で、特に私の同期は「当たり年」。その連中に交じって私も毎月の模擬試験ではトップ15人の中には入っていましたから、児島君にどれくらい迫れるかな？と、模擬試験では挑戦する気持でした。ところが、校長室前に貼りだされた成績表を見て《うへっ!!こりやかなわん》でした。私は2番目とは言え、合計点で20点か30点も水をあけられていましたから。と、ドアが開いて、城所先生が顔を出され、「おう、門田君。どうだった？」と。「恐

れ入りました。先生、5組には凄いのがいますね」と申し上げたら、先生《この劣等生、何を言うのか?》と眼を丸くされ、「何番目だった?」と。

「どうぞ、御覧になって下さい」と申し上げると、先生「要注意」と思っておられますから、随分下の方を御覧になって、「見当たらんのだの辺にいる?」「もつと上の方です。まだ上です。まだまだ」。到頭

「児島君のすぐ下を御覧になって下さい」に、城所先生「えっ?! (何とも言えない表情をされて) そうか。分かった。頑張り給え」と、漸く評価を改めて下さいました。元はと言えば、我が不真面目のむくいですけどね。

当然、児島君は現役で東大理Iに合格し、鎌高の「東大1番槍」として歴史に残っていたでしょう。進適II進学適性検査という変てこなものがなかったら。あつても、彼にもう少しだけ度胸があつたなら。私は「進適」は楽勝でしたが、児島君は試験当日高熱を出してしまい(戸塚から通学してましたから、流感にでも感染したのでしょうか)、それでも40点台の成績ではあつたそうです。私を知る限りでは、東大では

進適による「足切り」はされなかった筈なのですが、彼はそれが怖かつたのでしよう、1次の国立大学の中で、九大の工学部を選び、製鉄には行けず、冶金の非鉄金属に進んでしまいました。既に鉄鋼の時代ではなかったのに: 東北大学に進んで特殊合金か半導体でも研究していたら、彼の人生も変わっていたでしょうに。

さて昭和28(1953)年が明け、父がえらいことをやらかして呉れました。元旦に1杯機嫌で初詣に出掛けると言い出し、私より13歳年下の末弟を連れて、鶴岡八幡宮に詣でたのは良かったのですが、こともあろうに下駄履きで太鼓橋を渡るうとしたのです。酔っ払っている上に、手摺を頼りにもしなかつたらしく、当然滑って転んで、かなり怪我をして帰って来ました。新調したばかりの眼鏡も飛んで行って、源平池にドボン…。大事な惣領息子が東大入試に挑戦しようという年の初詣でに滑って転んで来るような父親も、かなり変わっていませんか? そのせいかどうか、私は見事落第しました(末弟の著書『オヤジの出番』門田元宏著、2010(株)現代図

書発行によりますと、「今では太鼓橋は渡れなくなっているが〔中略〕こんなことをする酔っ払いがいたから、太鼓橋を渡れなくなってしまうのだ」そうです。興味をお持ちの方は、御一読を)。

児島君と同じ5組に、M(旧姓)Mさんという才女がいました。浪人して駿台予備校に通い始めて、午後部の彼女と交代時間に玄関でばったり再会しました。当時、駿台予備校の席は4人掛けで、最前列正面に近い所に女子が3人座っており、1人が常時空席になっている場所(つまり、3人とも「昔の東大的な美人度が高くなく」方々だったので)があり、私は国民学校時代に気違いじみた音楽教師に殴打され、鼓膜を傷めた後遺症で右耳の聴力が弱いので、彼女たちのお許しを頂いて4人目の席に座っていたのです。が、女子同士の情報交換ネットワークは凄いもので、午後部のMさんにも、鎌高で彼女の同期生が最前列にいたりという情報は、すぐに伝わりましたし、徹夜勉強の祟りで居眠りした私が軒をかき、心優しい講師が「徹夜で疲れたのですね。5分だけ寝かして、起こしてあげなさい」と

見逃して下さいました事件も、Mさんの知るところとなりました。

年が明けて月例の総合模擬試験で1回だけ第1位であった時は、Mさんも「彼、凄いいじゃんか!」と言われて喜んで呉れたようです。でも、正直ラストスパートが少し早過ぎて息切れしたのでしょうか。本番の入試では、数学が5題中正解2題という惨状でした。それでも理科と社会で稼いだお蔭で、何とか理IIに滑り込み合格し、児島君の「リベンジ」ができた次第です。当時は田園調布に住宅が借りられており、すぐに鎌倉まで飛んで行って城所先生に御報告に及び、まだ石炭ストーブを囲んでいた職員室で、数人の先生がたに喜んで頂くことができました。

児島君が休暇で九州から帰郷し、田園調布のNHK社宅を訪ねて呉れた時、Mさんを電話で誘って見ましたら、彼女も永福町からわざわざ来て呉れました。彼女のドレス姿が眩しかったですね。まだ幼なかつた末弟を交えた写真(モノクロ)が残っています。

卒業後、彼は安中市のT亜鉛に就職しました。谷川岳や妙義山が遠くないし、山男だった彼には悪くない

就職先だと思っていたのですが…。

私も社会人になり、家庭を持ちました。ある新春、児島君から年賀状が来たのに、門松を片付けた途端に彼の奥様から、それも安中市発ではなく九州の御実家発で、彼の訃報が届きました。「好きな山にも登れず、本当に可哀想でした…」という文言で。

《奥様が正月早々社宅を立ち退かされるような死に方をした―さては、T亜鉛もカドミウム中毒事件を起こしたな》と直感し、それは的中していました。事件が報道された時、《会社を辞めて、学者に転向すれば良かったのに》と、口惜しい限りでした。

その後、私も群馬県の住人になりました。足元が見えない車には怖くて乗れない臆病者なので、間もなく84歳ですが、200ccのモーターバイクが唯一の『足』。普通免許も取ったことはありません。危ない目に遭ったことも数回ありましたが、居眠り運転だの『よそ見運転』などは物理的に不可能だし、ブレーキとアクセルを間違える心配も皆無です。

児島君は真面目で善良な弱者らしい人生を生き、真面目で善良な弱者

として死んだと思います。彼には及ぶべくもありませんが、インフラが十分とは言えない車社会の中で、弱者らしい生き方を通すのも悪くないのではないのでしょうか。

ただ、翻訳職人は目を酷使し頭を使う仕事ですから、頭の保護には十分配慮しています。近頃は炎天下でも頭が蒸れないように、開閉可能な通風孔が付いているヘルメットが市販されていて、これはお奨め。私が大学を卒業した年に鎌高を卒業された赤塚親弘（赤木圭一郎）氏が活躍された時代にこんなヘルメットが市販されていたら、あたら好漢がカートの事故くらいで命を落とすこともなかったでしょうに（合掌）。

徳島県立城東高校の同級生だった田中俊二氏（児島君に劣らぬ秀才で、恋人運にも会社運にも恵まれていました）が在学中に日本楽器に採用決定となり、ヤマハ発動機の技術系役員にまで昇進したのに、ホンダとスズキしか乗ったことがなかったのですが、4台めに漸く写真のヤマハTWが愛車となり、同級生の義理が果たせました。2018年春には免許更新ですが、まだ認知機能検査は大丈夫だと思えます。



20年近く乗っているヤマハTW。ブレーキの油圧システムを手入れし、自宅前の私道でブレーキをテストした時の写真なので、革手袋を着用していません。



太田市西部の新田荘にある歴史資料館にて。太田市内で発掘された縄文草創期の土器と石器類の一括遺物が展示されています。児島次夫君が勤めていた安中市のT亜鉛は、ここから遠くはありません。

『鎌高卒、優れたアーティスト』

日本画家

手塚 恒治

21回生 (S45年卒)

先生たちとの出会い

藤沢小学校時、絵画教室に通って
いました。父は、おりおり趣味で描
いてました。藤ヶ岡中学2年、美術
の小黒三郎先生が担任で、先生は多
摩美術大学の油科出身で、教師を辞
した後、動物などの組み木で有名に
なり、今も健在です。先生の影響
は大きく、その頃より、美術方面に
進みたいと思っていました。

それから、鎌倉高校に入学し、美
術部に入部したことで進路が決定し
ました。その頃、2・3年生の先輩
たちが美大に進むべき準備をしてい
たこともあり、私も、学校の帰りに
江ノ電・柳小路で降り、油絵の中
村清治先生の教室で、卒業まで石膏
デッサンの指導を受けることになり
ます。中村先生の人柄や、美しい色
彩とやわらかな表現力の作品が、と
ても好きでした。

美術部では、写生キャンプや地区
の高校間の合同展覧会、鎌高の小さ
なギャラリーでの展示など、楽し
く過ごしていました。顧問は、日本
画家の伊藤昇先生で、日展に出品さ
れており、図書館に先生の大作が飾
られていたことで、初めて日本画に

触れることになりました。2年次に先
生が代わり、同じく日本画の齊藤正
夫先生が着任されましたが、2年
では美術の授業があり、また先生が
部室で、ご自身の制作をされていた
ので、日本画の絵の具の美しさに憧
れ、将来趣味で描ければと考えるよ
うになりました。というのは、中学
よりデザインに興味があり、受験は
グラフィックデザインと決めていた
からです。

3年次では、コースにわかれたク
ラスで、私は1組で男子が10人程
度、音楽や美術に進む仲間もあり、
選択で美術がとれました。その時間
は、斉藤先生より受験のための石膏
デッサンをしてればよいといつて
下さり、他の授業も抜けだし、デッ
サンをしにきたら…というアドバ
イス？もありました。また、冬期
講習で、お茶の水の予備校にいった
あと、1月より、1時間だけ授業を
受け早退し、そこに通ったというよ
うに、鎌高は自由な環境でした。な
お、3年の担任は現国の加藤泰男先
生で、落ち着いた誠実な先生で、お
世話になりました。また、1・2年
担任は日体大出身の体育の元氣ハッ
ラツとした渡辺苗史先生です。以前

1回1・2年の同窓会をした時、私
たちより先生のほうが若々しかった
ことを思い出します。

現役での受験はずっと決めていた
デザイン科でしたが、浪人中、母の
入院で予備校を長く休んだ時、友人
のアドバイスもあり、考えが変わり、
日本画科の受験に変更しました。

入学したのは多摩美術大学絵画科
日本画専攻です。大学2年より3年
間、加山又造先生の教室に入れるめ
ぐり合わせで、その多材な制作活動
で、戦後の日本画の旗手であった先
生の傍わらで勉強できたことは、幸
せでした。当時、日本画は、院展・

創画会・日展日本画部の3つの団体
が競っていました。私も4年次、
挑戦することにしました。私は、尊
敬する大好きな加山先生のいる創画
会ではなく、あらたな出会いを求め
て、日展に出品することにし、幸い
入選でき、毎日新聞の展覧会批評に
も取り上げてもらえました。また、
日展新人選抜展に選出され、銀座松
坂屋でも10年間、大作のグループ展
に参加する機会を得ました。

そして、大学卒業後、寒川の中学
校に赴任します。その間、日展の中
心作家、奥田元宋先生の門下に入れ

ていただきましたが、教師と門下で
の自分の制作との両立に悩み、7年
間で学校を辞め、絵ひとすじに行く
ことを決意しました。がしかし、時
間ができたとはいえ、なかなか思う
ように描けず、苦しみの連続で、現
在に至っています。

今は、日展を中心に、個展、グ
ループ展…と発表しつづけていま
す。なお、15年程前に、加山・奥田
両先生とも亡くなられましたが、二
人の文化勲章受賞者のすぐれた画家
にめぐり会え、身近に接し得たこと
は、大きな財産となっています。

私の絵のテーマ

大学4年の時、日展に初出品し
入選した作品の題名は「踏絵」で
す。鎌高生の時、ベトナム反戦デモ
から、大学の民主化を求める中、デ
モに参加したり、私服で登校し授業
を受けるクラスの仲間を、或る意味
で、その自己主張を羨ましく思っ
ていました。やがて何年も経つたの
ち、「踏絵」を描くことで、なにか
私なりに清算した思いでした。

それから3年後、1980年1月
4日、父が60歳で他界。喪主として

自宅で葬儀し、父の母、親戚、町内、さらに父や姉の關係、私の寒川の中学の先生方、クラスの生徒など、多くの方々がいらしてくれました。また、向かいの少女が折鶴をつくり、祭壇に吊るしてくれました。そしてその年、日展に黒衣の少女が赤と緑の折鶴を持つ作品を描き、画題を「折鶴」とし、父への鎮魂の絵としました。

教師をやめてから、数年間人物画から離れ、身近な庭の情景に目を向けることになりました。時間にゆとりができ、よく鎌倉にスケッチに行き、作品にしました。そして再び人物が庭を背景にして登場しましたが、父の他界から20年、2000年の日展で「日午（献花）」を描き、私の父への思いに区切りをつけました。

なお、2008年、鎌倉芸術館ギャラリーでの鎌高創立80周年記念美術展にお声がかかり、前年の日展出品作「昨日・今日」を出品します。私は藤沢に生まれ、以前は2階の南窓から、湘南の海がキラキラかがやいて見えました。もちろん、鎌高の校舎からも同様で、授業中よく眺めていました。でも、母の育った横須賀の海は、静かに、深く、胸をうちます。そして、やっと2007年、日展の「昨日・今日」や、個展、グループ展の人物の背景に海を描き

入れることができ、2010年、作品集「昨日・今日」を出版しました。

やがて2012年、父の33回忌があった年、作品集「旅立つ朝」を出版し記念展を開催しましたが、この頃より母の体調がわるくなり、翌年1月、母が緊急入院し、程無く自宅にもどりました。担当医師より、いつ亡くなってもおかしくないといえられましたが、4ヶ月も頑張った末、5月11日夜、静かに眠るように旅立ちました。あと少しで90歳でした。白のカラーとアンスリウムで一杯に飾りつけた斎場の小部屋で、内々にひっそりと送り、後日、ご近所の方々・親戚に報告し、七七日忌法要の日、父のもとへ、と納骨しました。翌日、母の両親と母の兄・弟のねむる墓に母の遺影をもって墓参し、そして、横須賀の海に四十九日までつけていたお線香の灰を散らせて、帰郷させることができました。その年の日展には、「還らぬ旅」、翌年「献花」を発表しました。

私の絵のテーマの根底には、理解のあった、そして応援してくれた、父と母への思いがあります。そのことが、私に描き続けていく力を与えてくれます。そして、2016年末、父と母に捧げる作品集「風の記憶」を出版しました。

おわりに

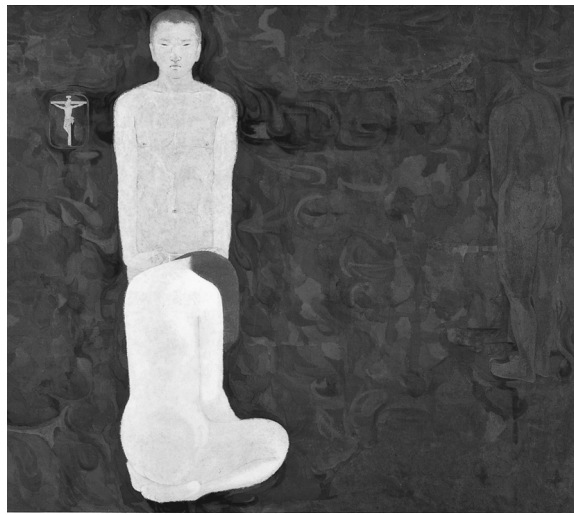
鎌高出身の日本画では、先輩に、芸大名誉教授の関出先生、院展同人の伊藤彭耳先生、妹の院展特待の伊藤みさと先生など、また後輩の多くの活躍されてる作家たちと、同じ鎌倉高校で過ごせたこと、そして、たくさんの同窓生たちに出会えたことに感謝致します。

年譜

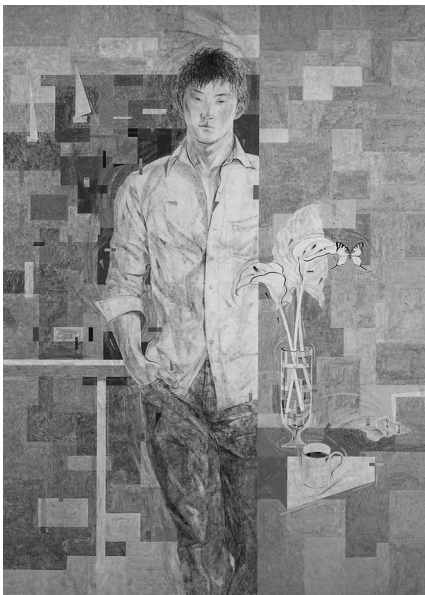
1951年	4月26日	神奈川県藤沢市生	2010年	個展「作品集」	（翌年会員に）
1964年		藤沢小学校卒業	2010年	個展「昨日・今日」	（昨日・今日）
1967年		藤ヶ岡中学校卒業	2007年	第39回日展審査員	（西邑画廊）
1970年		鎌倉高校卒業	2005年	高増暁子・手塚恒治	二人展
1976年		第11回日春展	2007年	第32回日展	（翌年から出品委嘱）
		〈踏絵〉初入選	2005年	〈日午（献花）〉	
		第8回日展	2007年	第32回日展	
1977年		多摩美術大学	2007年	第39回日展審査員	
		日本画科卒業	2007年	〈昨日・今日〉	
		（加山又造教室）	2007年	第39回日展審査員	
1980年	1月4日	父・岩太郎死去	2005年	高増暁子・手塚恒治	二人展
		第12回日展〈折鶴〉	2007年	第39回日展審査員	
1992年		第27回日春展	2007年	第39回日展審査員	
		〈日午〉奨励賞	2007年	第39回日展審査員	
1993年		第25回日展	2007年	第39回日展審査員	
		〈独〉特選	2007年	第39回日展審査員	
		その他	2007年	第39回日展審査員	
		個展・グループ展	2007年	第39回日展審査員	
		多数	2007年	第39回日展審査員	



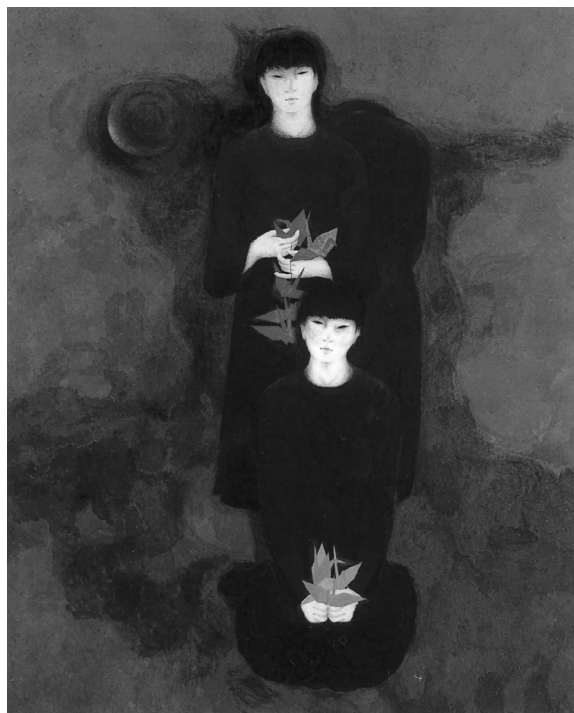
日午(献花) 2000 32・日展 210×150cm



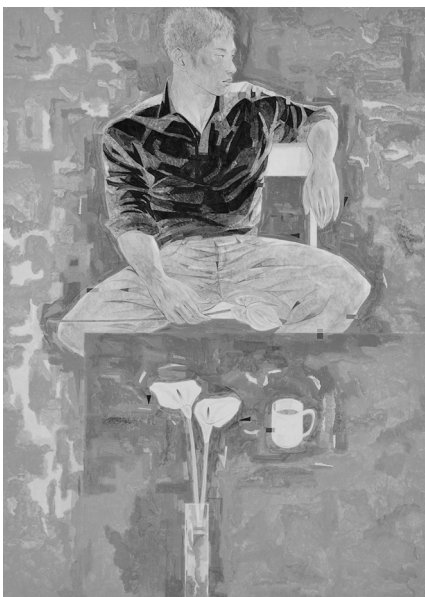
踏絵 1976 8・日展 175×200cm



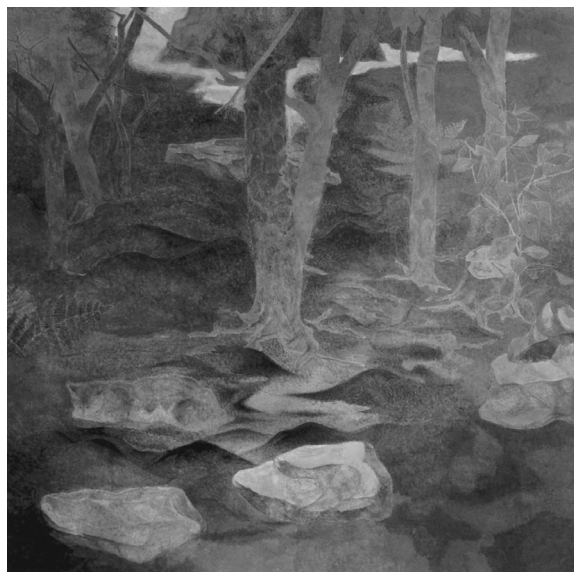
昨日・今日 2007 39・日展 210×150cm



折鶴 1980 12・日展 210×170cm



献花 2014 改組新 1・日展 210×150cm



庭 1984 16・日展 185×185cm

職員人事異動

○大変お世話になりました。

❖ 退任者

- 真壁 広道先生(校長・社会)
- 小泉 玲子さん(事務長)
- 宇佐美 恭子先生(英語)

❖ 転出者

- 齋藤 和宏先生(副校長・工業)
磯子工業高校(校長)へ
- 木浪 信之先生(理科)
横須賀高校へ
- 東條 薫先生(理科)
柏陽高校へ
- 宮崎 祐爾先生(国語)
茅ヶ崎北陵高校へ
- 大島 英夫先生(社会)
上矢部高校へ
- 北見 明先生(英語)
釜利谷高校へ
- 岡本 祐子先生(国語)
鶴嶺高校へ
- 積田 侑弥先生(数学)
深沢高校へ
- 棚橋 美咲先生(理科)
瀬谷高校へ
- 大橋 彩音さん(理科)
大船高校へ
- 一木 佐季子さん(英語)
大和東高校へ

○よろしくおねがいます。

❖ 転入者

- 重田 宏先生(校長・数学)
総合教育センターより
- 相羽 昭仁先生(副校長・理科)
茅ヶ崎北陵高校より
- 橋本 信男さん(事務長)
鎌倉養護学校より
- 中田 修先生(理科・情報)
柏陽高校より
- 柴田 幸大先生(理科)
横浜清陵高校より
- 中西 保先生(数学)
柏陽高校より
- 福元 純矢先生(社会)
麻溝台高校より
- 田端 純也先生(数学)
磯子工業高校より
- 林 育子先生(国語)
新規
- 杉澤 栄治先生(国語)
新規
- 花田 あゆみ先生(英語)
新規

大学別合格者数のお知らせ

大学別合格者数は鎌高 HP にも掲載されていますので、うしおから削除いたしました。今後は鎌高 HP を検索して下さい。



「わくわくキッズコンサート」のお知らせ

今までうしおの会報に「わくわくキッズコンサート」の案内を掲載しておりましたが、今後はうしおの会報ではなく、うしお会 HP に掲載する事になりました。URL を知らなくても、「うしお会」と入力すれば、HP を見ることができます。

部活動報告

●●運動部●●

■アメリカンフットボール部

私たちアメリカンフットボール部は、公立高校初の神奈川県大会優勝を目指しています。

チームでは「挨拶・時間厳守・清掃」を大切にしています。保護者やOBの方々、そして学校への感謝の気持ちを忘れず、感動を届けるフットボールの体現を目指し精進し続けます。

■野球部

私たち野球部は、土日の練習試合での反省を活かし、自主的に練習内容を考えて、平日の練習に取り組んでいます。

2年連続の初戦敗退という結果から、今年は「夏の大会で1勝」という目標にしました。目標達成に向け、チーム一丸となって戦っていきます。

■男子硬式テニス部

男子硬式テニス部の活動日は月・土です。平日は16:00から2時間半、土曜日は4時間と時間を決め

て、集中して練習を行っていただきます。試合やOB会などで様々な刺激を受けながら、日々切磋琢磨しています。

これからも皆様から応援される様なチームになれるように努力していきます。

■女子硬式テニス部

みんな仲が良く、なんでも言い合える仲間が集まっています。その利点を生かして、普段は自分たちで練習の内容を考えたり、戦略を立てたりしています。

鎌倉高校テニス部としての自覚を持ち、去年より良い成績が取れるよう、また悔いが残らぬよう県大会に向けて努力していきたいと思っています。

■剣道部

私たち剣道部は、男子はシード権獲得、女子は関東大会出場を目標に、格技場で活動しています。基本を大切に、日々の稽古を行っています。高校から剣道を始めたという部員も多く活躍しているのが特徴で、チームワークは抜群です。剣道の礼儀を生かし、日頃から挨拶の徹底や清掃活動にも力を入れていきます。

今年度も全部員団結し、一丸と

■卓球部

なって戦います。応援よろしくお願ひします。

卓球部は、体育館2階にある卓球場を使い、県大会での上位進出を目指して、日々練習に励んでいます。3年前、部員が1人になってしまった時もありましたが、卒業生のコーチの方のご協力もあり、現在では男女合わせて17名となり、積極的に練習試合等を行っているところですよ。

昨年度からは、強化合宿も行っています。部員の自主性を尊重し、強く、楽しく、そして礼儀正しい卓球部をこれからも守り続けて行きたいと思っておりますので、応援よろしくお願ひします。

■水泳部

水泳部は現在3年生14人、2年生10人、1年生10人の計34人で活動しています。夏は水中、冬は陸上を中心に、お互いに教え合い高め合いながら切磋琢磨して練習に励んでいます。本年度も日々の練習を大切に、一人ひとりがそれぞれの目標に向かって頑張ります。楽しみながら活動していきたいと思っております。応援よろしくお願ひします。

<p>有限会社 東昭産業 取締役 松中 芳治 (昭和40年卒) 〒248-0006 鎌倉市小町1-3-5 TEL: 0467-22-1908 FAX: 0467-25-3411</p>	<p>株式会社 ミルススペース 代表取締役 田中 正明 (昭和36年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢973番地 相模プラザ第3ビル6階 TEL: 0466-23-3012 FAX: 0466-26-6509</p>
<p>株式会社 角 若 松 取締役会長 増田 隆之 (昭和40年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢559 角若松ビル TEL: 0466-25-3005 FAX: 0466-25-3006</p>	<p>株式会社 ワイエスシー 代表取締役 小泉 稔 (昭和40年卒) 〒248-0006 鎌倉市小町2-1623 TEL: 0467-25-0684 FAX: 0467-23-0445 E-mail:koizumi@ysc.jp</p>
<p>学校法人 北鎌倉学園 おおぞら幼稚園 理事長 山田 誠一 (昭和41年卒) 〒247-0056 鎌倉市大船5-10-35 TEL: 0467-46-2932 FAX: 0467-46-2948 E-mail:info@ohzora.ed.jp http://ohzora.ed.jp</p>	<p>株式会社 林 塗装店 代表取締役 林 澄雄 (昭和40年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢576 http://www.hayapen.co.jp TEL: 0466-27-1761</p>

■弓道部

弓道部は現在3年生13人、2年生20人、1年生14人の計47人で活動しています。昨年度はなかなか良い結果を持って帰ってくる事ができませんでした。4月には新入部員も加わり、部活としては良いスタートをきれたと思います。時間は限られているので、全員が一射一射を大切に、個人だけではなく全員がまんべんなくレベルアップして、上の大会に出場できるように頑張っていきたいと思えます。

■サッカー部

こんにちは、鎌倉高校サッカー部です。新1年生が入部し、現在部員数約80名で高みを目指して取り組んでいます。文武両道の高いレベルでの両立、県ベスト4以上を目標として活動しています。支えてくださる全ての方への感謝を忘れずに、全力で戦います。声援よろしく願います。

■男子バレーボール部

こんにちは！男子バレーボール部です。私たちは、選手が3年生6人、2年生6人、1年生7人、マネージャーが3年生2人、2年生2人、1年生2人で活動しています。

顧問の先生方、コーチに様々なサポートを受け、日々切磋琢磨し、充実した活動を行っています。応援よろしく願います！

■女子バレーボール部

私たち女子バレーボール部は3年生8人、2年生7人、1年生7人（マネージャー4人）の計22人で活動していて、週に5日から6日練習しています。県大会出場を目指して、日々バレーボールに励んでいます。今年経験者が多く、去年よりパワーアップした姿をお見せ出来るように頑張りますので、応援よろしく願います。

平成29年度の男子ハンドボール部は、しっかりと活動しましたが大きな結果は残せませんでした。今年度もしっかりと活動して、顧問の先生とコーチと一緒に、チーム一丸となって努力していきます。私たちを支えてくださるOBの方や保護者の方への感謝の気持ちを忘れず、これからも頑張っていきたいと思います。応援よろしく願います。

■男子ハンドボール部

今年度は19人の新入部員を迎え、

■女子ハンドボール部

今年度は19人の新入部員を迎え、

マネージャー3人を含む47人で活動しています。試合に勝つことは勿論ですが、練習ができる環境を与えて下さっていることへの感謝や仲間との信頼関係を大切にすることを意識し、プレーで表現できるように日々努力を重ねています。鎌倉高校のハンドボール部は、間もなく40周年を迎えるということなので、歴代の先輩方のバトンをしっかり受け継ぎ、精一杯頑張ります。応援よろしく願います。

3年生2人、2年生8人、1年生13人で活動しています。県大会出場を目指し、日々練習に励んでいます。昨年度は目標に届きませんでした。3年生の集大成となる高校総体予選では、悔しさをバネに、チーム一丸となって「全員バスケット」で臨みたいと思います。応援よろしく願います。

■男子バスケットボール部

「力戦奮闘」と掲げ「女バスっていいね！」を合言葉に少人数ですが、日々練習しています。公式戦でもブロック決勝迄勝ち上がり強くなってきました。新人戦

■女子バスケットボール部

新人戦

<p>株式会社 イシイフーズ 代表取締役 石井 英樹 (昭和43年卒) 〒251-0047 藤沢市辻堂1-8-29 TEL & FAX: 0466-34-7072 E-mail: ishii.fds@gmail.com</p>	<p>鎌倉 山田屋 岡本 治男 (昭和41年卒) 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下3-8-29 TEL: 0467-22-0338 FAX: 0467-24-8497 MAIL: mail@kamakura-yamadaya.jp</p>
<p>鈴木運輸株式会社 代表取締役 鈴木 勝貴 (昭和45年卒) 〒251-0056 藤沢市羽鳥4-13-33 TEL: 0466-34-1118 FAX: 0466-34-1119 http://www.szki-ex.co.jp</p>	<p>フライスター株式会社 代表取締役 関 全男 (昭和44年卒) 〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-6-1</p>
<p>渡辺啓二税理士事務所 税理士 渡辺 啓二 (昭和46年卒) 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸3-19-20 TEL: 0466-21-8150 FAX: 0466-21-8151</p>	<p>株式会社 小池造園 代表取締役 小池 一彦 (昭和45年卒) 〒251-0004 藤沢市藤が岡2-9-5 TEL: 0466-22-5550 FAX: 0466-24-4295 http://www.kz-koike.ecnet.jp</p>

では、必ず県大会出場を果たしたいです。

■陸上競技部

私達陸上部は、常に目標を持ち活動に取り組んでいます。中長距離は昨年叶わなかった秋の県駅伝出場と個人の自己ベスト更新にむけ日々の努力を怠らず、足りない部分を補い強化する練習に取り組んでいます。短距離は、動画を撮るなど工夫した練習を取り入れ、お互いに刺激し合うことでより内容の濃い練習をしています。

フィールド競技では、関東大会を視野に入れ、1日1日を大切に鍛錬しています。近年県大会の常連になりつつある鎌陸は、個人競技でもチームで戦っているような絆と仲の良さを活かし、これからもっともっと飛躍できるように頑張りますので、暖かく見ていただければ幸いです。

■体操部

体操部は、3年2人、2年1人、1年2人の計5人で活動しています。人数が少ない分部員同士の仲がよく、活発に一生懸命活動しています。

よくOB、OGの方々が来てくださったり、他校と合同練習をした

り、楽しく部活をしています。今年もそれぞれの目標に向かって頑張りたいです。

■バドミントン部

バドミントン部は、男子30名、女子16名で活動しています。男女共に地区の団体戦、個人戦で上位の成績を収めており、また、県大会にも出場することができました。

しかし、春の関東予選の県大会では1回戦で敗退し、男女共に悔しい結果となってしまったので、最後の集大成となるインターハイ予選では、一つでも多く勝ち上がり、悔いが残らないように全力で頑張ります。

■スキー山岳部

スキー山岳部は、基本的に平日は週4日活動しています。主に、海岸を走る、筋力トレーニングをするなど登山に必要な体力づくりを行っています。

およそ月に1回、丹沢で登山をします。昨年の夏合宿では八ヶ岳の赤岳に行きました。現在、部員が1名なので、顧問の先生と協力し、新入部員の獲得を目指して積極的に勧誘活動に取り組みで行きたいと思っています。

■ソフトボール部

私たち女子ソフトボール部は15名で活動しています。現在、県ベスト8という目標を掲げ、日々お互いに切磋琢磨しあっています。

恵まれた練習環境、常に的確なアドバイスを下さる2人の先生、いつも傍で支えてくれる保護者に感謝し、目標達成に向けて頑張りますので、応援よろしくお願ひします。

●●文化部

■茶道部

今年度の新入部員は1年生が女子2名と例年に比べ少ないです。しかし、少人数だからこそ、きめ細やかな指導を受けることができ、部員各自で苦手な部分を見つけ追求しています。昨年度も大仏茶会や高校生茶会など様々なお茶会に参加させていただきました。

今年も文化祭なので、部員一同皆様のお越しをお待ちしています。部員たちで更に稽古を積み、茶道部を盛り上げて行きたいです。

■g i e e (合唱)部

男女12名とまだまだ小さな部活で

<p>有限会社 成勢商店 代表取締役 成勢 啓一 (昭和48年卒) 〒252-0816 藤沢市遠藤2480 TEL: 0466-87-0021 FAX: 0466-87-0023</p>	<p>税理士法人 みつば 代表社員 榊原 雄児 (昭和47年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢115 FTビル6F TEL: 0466-27-0208 FAX: 0466-25-9082</p>
<p>株式会社 水落建設 代表取締役 水落 雄一 (昭和51年卒) 〒251-0015 藤沢市川名801 TEL: 0466-26-1601 FAX: 0466-23-6019</p>	<p>しらすと地魚料理・旅館 かきや (腰越電車通り) 代表取締役 戸倉 孝二 (昭和50年卒) 〒248-0033 鎌倉市腰越3-7-24 TEL: 0467-32-4828 FAX: 0467-32-4180 E-mail: shonan@kakiya.co.jp http://www.kakiya.co.jp</p>
<p>株式会社 湘南セールスプロモーション 櫻井 淳 青野 久美 (昭和55年卒) 〒251-0025 藤沢市鶴沼石上1-8-10-101 TEL: 0466-25-1035 http://shonansp.com</p>	<p>有限会社 ワールドタバコたちばな 代表取締役 叢 秀樹 (昭和51年卒) 〒251-0055 藤沢市南藤沢2-1-3 ダイヤモンドビル内 TEL & FAX: 0466-22-2373</p>

すが、部員の仲が非常に良く、歌うことを楽しみながら活動しています。昨年度は新入生歓迎会、文化祭での発表に加え、早稲田大学同窓会への出演や神奈川県高等学校総合文化祭の合唱祭に参加し、他校の合唱部と触れ合うなど、活動の幅を広げることができました。今年度もこれからの活動に加え、ボランティア等に参加すると共に、夏のNHK全国合唱コンクールへの出場を目標に、部員一同より一層精進して参ります。

■吹奏楽部

昨年度は、県南吹奏楽コンクールにて金賞を受賞しました。アンサンブル神奈川県大会では、木管三重奏が銀賞、県南支部大会では、サククス四重奏が銀賞を受賞、フェスティバル部門に打楽器五重奏、クラリネット三重奏が出場しました。また、テレビア病院訪問演奏や、義経まつりでの演奏など、地域に根ざした活動も積極的に行っていきます。

今年度は、コンクールで上部大会への出場、また3月に開催予定の定期演奏会の成功を目標に精進していきます!! どうぞ、応援よろしくお祈いします!

■室内楽部

私たち室内楽部は3年生4名、2年生7名の計11名で活動しています。昨年度は、文化祭での発表や福祉施設を訪問しての演奏を行いました。また、部活から2名がオーケストラワークショップに参加して、神奈川県管弦楽演奏会に出演したり、現2年生の多くが弦楽講習会へ参加したりすることで、技術の上達だけでなく他校との関わりも持てました。

今年度は新たに1年生も迎え、様々な場所で練習の成果を発表できる機会を増やしたいと思っています。

■ダンス部

ダンス部は現在70名で活動しています。昨年度はチアダンスや県新人コンクール、青少年ダンス発表会への参加などを中心に活動してきました。

今年度は人数の多さを生かし、昨年度より迫力のある作品を作れるよう頑張つていきますので、応援よろしくお祈いします。

■軽音楽部（日歌会）

日歌会は、校内での活動に加え、他校との合同ライブなども行い、積極的に活動をしています。

今年度は1年生の入部は50人を超え、練習時間も朝練習を展開する予定です。バンド間の交流にも力を注ぎ、お互いに向上できる部活でありたいと思っています。

■美術部

昨年度は部がテレビ番組で紹介されるなど、今までとは少し違った一年となりました。さらに、「神奈川県交通安全ポスター」への出展で佳作を取るといった部員の活躍もありました。現在兼部している部員はおらず、それぞれ作品の製作に集中できています。

今年度は文化祭が毎年開催となつてから2年目ということで、部としても更に盛り上げていけたらと思つていきます。

■KBS部

KBSは合唱コンクールや文化祭、学校説明会などの行事のアナウンスを中心に活動をしています。昨年は、「コトダマラジオ」への出演やNコンのアナウンス・朗読部門の出場など様々な校外活動に参加しました。

今年度は、昨年以上に行事で鎌高生に楽しんでもらえるよう、縁の下の力持ちとして頑張つていこうと思ひます。

 <p>日本精麦株式会社 代表取締役社長 田中 重光 (昭和61年卒) 本社 〒253-0114 神奈川県高座郡寒川町田端 1590-5 TEL : 0467-72-3620(代) FAX : 0467-74-2002 http://www.nichibaku.co.jp</p>	<p>有限会社 国分屋 代表取締役 飯田 圭太 (昭和60年卒) 〒252-0816 藤沢市遠藤 728 番地の 7 TEL : 0466-87-8832 FAX : 0466-87-8836 http://www.kokubuya.com</p>
<p>株式会社 重田工芸 代表取締役 重田 博章 (平成元年卒) 〒252-0816 藤沢市遠藤 298-6 TEL : 0466-88-6880 http://www.shigeta-kougei.com</p>	<p>市島徹社会保険労務士事務所 代表 市島 徹 (昭和62年卒) 〒220-0023 横浜市西区平沼 1-1-3 合人社高島橋ビル 4F TEL : 045-534-3001(代) FAX : 045-314-0011 E-mail:sougou@alcs.co.jp http://www.ichijima-labor.com/</p>

同好会

■科学研究会

古代製鉄法「たたら製鉄」の研究を続けて8年目となりました。昨年度までに鎌倉の砂鉄による製鉄法を確立した私達ですが、昨年度は他地方の砂鉄での製鉄に成功しました。また、生成した鉄から刀を作って頂き、テレビなどのメダイアに取り上げられました。今年度は、これまでの成果をまとめ、90周年記念行事で発表する為、まずは鎌高最後のたたら製鉄へ向けて努力していきます。

■演劇同好会

演劇同好会は、平成27年夏に発足し、今年でようやく3周年を迎える鎌倉高校で、今最も新しい同好会です。これまでの活動としては、青少年センターで開催された演劇のワークショップに参加したり、後夜祭で殺陣や短い劇を発表したり、近隣の中学校を訪問して警察の方と一緒に、非行防止教室を開催したりしてきました。現在部員は6名ですが、兼部も可能で随時入会を受け付けています。最大の目標は、毎年夏に開催される演劇の全国大会へ出場することです。

生徒会執行部

昨年度は、一昨年に引き続き、インターアクトクラブへの参加、近隣の高校との四校連携会議など校外での活動の他、部室移動の調整や部活動予算のマニュアル作成など学校生活をより快適にできるよう活動しました。積み上げてきたものを生かし、来年度も更なる活動につなげたいと思います。



うしお会 協賛金

協賛金につきましては、従来協賛金納入者名を掲載しておりましたが、個人情報保護の観点から協賛金納入者名の掲載を止め、件数・金額のみといたしました。

	件数	金額
今回 (37号) の協賛金	1,280 件	3,673,682 円
前回 (36号) の協賛金	1,335 件	4,062,310 円

蕎麦・会席料理
1.5万坪の庭と眺望
〒248-0031 鎌倉市鎌倉山3-1-1 TEL0467-32-5656



RAITEI

株式会社 ヤベ自動車工業

〒252-0815 藤沢市石川6-1-1
TEL : 0466 - 87 - 5252 http://yabe-motors.co.jp



ICHIKAWA

価値ある逸品もかけがえのない一品も
⇒リフォーム&リペアお任せください

〒251-0055 藤沢市南藤沢2-1-1フジサワ名店ビル2F tel:0466-26-3870 fax:0466-26-8390

〈収入の部〉

項 目	予算額 a	決算額 b	増減額 b - a
繰越金	1,150,724	1,150,724	0
68 回入金	1,600,000	1,545,000	▲ 55,000
利息	500	10	▲ 490
協賛金	3,500,000	3,963,682	463,682
協賛金	100,000	30,000	▲ 70,000
寄付	0	9,200	9,200
合 計	6,351,224	6,698,616	347,392

- * 協賛金のうち広告費 (290,000 円)
- * 収入 - 支出 = 平成 30 (2018) 年度へ繰越
6,698,616 - 4,827,600 = 1,871,016
- * 繰越金内訳 横浜銀行 1,868,146
ゆうちょ銀行 2,870
- * 寄付金内訳 1. S45 卒 金澤 明氏

〈特別会計 (周年行事積立金)〉

繰越金	1,580,917
積立金	800,000
寄付	0
利息	12
積立金合計	2,380,929
会場使用料前払	109,038
積立金残額	2,271,891

(平成 30 年度へ繰越し)

- * 90 周年記念式典は 2018 年 11 月 15 日に鎌倉芸術館で開催予定。
- * 会館使用料が前金払いの為、周年行事積立金より支出。

〈支出の部〉

項 目	予算額 a	決算額 b	増減額 b - a
会議費	50,000	31,997	▲ 18,003
会報費	3,200,000	3,271,839	71,839
通信費	300,000	259,652	▲ 40,348
部活動補助	400,000	100,000	▲ 300,000
卒業記念品	300,000	237,405	▲ 62,595
設備整備費	0	0	0
交通費	100,000	0	▲ 100,000
同窓会補助費	200,000	20,000	▲ 180,000
施設修繕補助	700,000	79,056	▲ 620,944
雑費	30,000	27,651	▲ 2,349
周年行事積立金	800,000	800,000	0
予備費	271,224	0	▲ 271,224
合 計	6,351,224	4,827,600	▲ 1,523,624

会計監査の結果、
上記の通りであることをご報告します。

会計監査 深澤 隆史

〈収入の部〉

項 目	予算額 a	前年度 予算額 b	増減額 a - b
繰越金	1,871,016	1,150,724	720,292
入金	1,600,000	1,600,000	0
利息	12	500	▲ 488
協賛金	3,500,000	3,500,000	0
寄付	100,000	100,000	0
雑入	0	0	0
合 計	7,071,028	6,351,224	719,804

〈特別会計 (周年行事積立金)〉

〈収入の部〉

項 目	予算額 a	前年度 予算額 b	増減額 a - b
繰越金	2,271,891	1,580,917	690,974
積立金	400,000	800,000	▲ 400,000
寄付	0	0	0
利息	12	12	0
合 計	2,671,903	2,380,929	290,974
90 周年事業支出	1,000,000	90 周年事業支出概算額(未定)	
積立金残額	1,671,903	平成 30 年度積立金残額	

- * 90 周年事業に係る支出額は、実行委員会において内容、金額を検討中で、現時点では未定である為、概算額を計上。

〈支出の部〉

項 目	予算額 a	前年度 予算額 b	増減額 a - b
会議費	50,000	50,000	0
会報費	3,300,000	3,200,000	100,000
通信費	300,000	300,000	0
部活動補助	1,000,000	400,000	600,000
卒業記念品	300,000	300,000	0
設備整備費	150,000	0	150,000
交通費	100,000	100,000	0
同窓会補助費	200,000	200,000	0
施設修繕補助費	0	700,000	▲ 700,000
名簿管理委託費	500,000	0	500,000
雑費	100,000	30,000	70,000
周年行事積立金	400,000	800,000	▲ 400,000
予備費	671,028	271,224	399,804
合 計	7,071,028	6,351,224	719,804

備 考

- 会報費：「うしお」印刷費用、送料
- 通信費：電電話代、ホームページ管理費用、切手代、OCN利用料
- 部活動補助：文化部・運動部等の生徒の活動に対する補助
- 設備整備費：古くなったパソコンの更新
- 交通費：ボランティア交通費
- 同窓会補助費：多人数での同窓会を開催した場合にたいする応援金
- 名簿管理委託費：個人情報の管理の観点から専門業者へ委託する経費
- 雑費：事務所経費(事務用品等の購入代)

平成30年度総会 & 懇親会のお知らせ

昨年も総会、懇親会を行い、幅広い年代の多くの方にご参加いただき楽しく過ごすことが出来ました。

本年も、以下の通り総会 & 懇親会を行います。多くの方にご参加いただき、新しいうしお会の方向を話し合しましょう。懇親会には、今回も、多くの方々にご参加いただきたくご案内申し上げます。ご家族、お子様をお連れになつてのご参加も歓迎いたします。

■══════ 平成30年度総会 ══════■

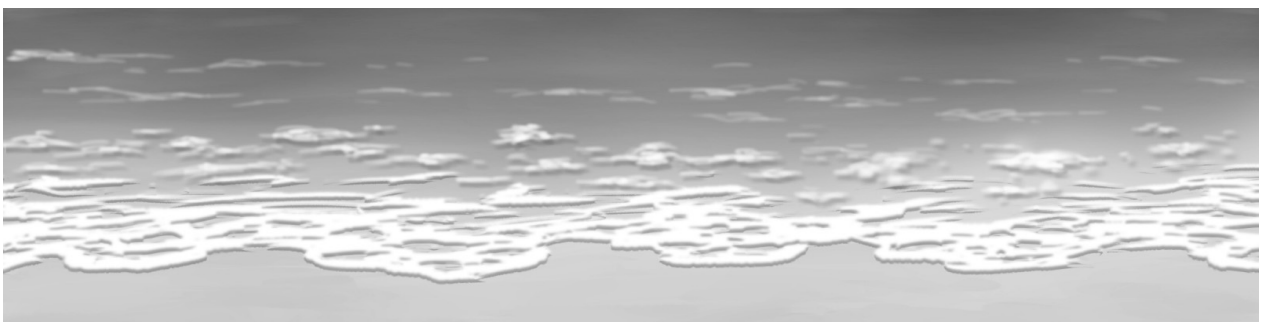
以下の日程で行われます。

- 日 時：平成30年6月30日(土) 11:00～12:00
- 場 所：神奈川県立鎌倉高校 大会議室（A棟3階）
- 対 象：うしお会会員（鎌倉高校卒業生）でしたらどなたでも
- 議 事：(1) 平成29年度事業報告について
(2) 平成29年度会計決算報告について
(3) 平成29年度会計監査報告について
(4) 平成30年度事業計画案について
(5) 平成30年度会計予算案について
(6) 平成30年度役員について
(7) その他

うしお会 懇親会のご案内

今年度も、総会終了後、懇親会を開催します。年齢を超えた先輩後輩の親睦を深めましょう!!
当日、鎌高文化祭も行なわれています。

- 日 時：平成30年6月30日(土) 総会終了後12:30頃から
- 場 所：神奈川県立鎌倉高校 大会議室（A棟3階）
- 対 象：うしお会会員（鎌倉高校卒業生）でしたらどなたでもご出席いただきたく存じます。
また、ご家族の皆様もお連れ下さい。
- 参加費：無料（飲み物、お菓子は用意してあります）
- 申込み：うしお会のホームページよりメールフォームまたはファックスにてお申し込み下さい。



役員役割分担

会長	渡辺 晃 (S47年卒)	総括
副会長	森田豊文 (S41年卒)	会報(総括補佐)
同	堀 英彦 (S46年卒)	総務(名簿主担当)
同	高橋建二 (S46年卒)	総務(会計主担当)
書記	奥村砂智子 (S51年卒)	会報
同	渡邊葉子 (S53年卒)	総務
同	田川由佳 (S54年卒)	総務(90周年担当)
同	安井弘子 (H4年卒)	総務
同	梅津美葉 (H5年卒)	総務
同	桜井 淳 (S55年卒)	ホームページ
同	富田朝子 (S50年卒)	会報
同	叢 秀樹 (S51年卒)	会報
同	石橋 淳 (S51年卒)	会報
同	佐藤幸恵 (S62年卒)	会報

監査役 深澤隆史 (S41年卒)
会計監査

相談役 増田隆之 (S40年卒)
同 鈴木勝貴 (S45年卒)

※役員役割分担は、平成30年6月30日に開催されるうしお会総会において審議されるものです。尚、審議の結果修正された場合は、同窓会 ホームページでお知らせ致します。

学校側役員

校長 重田 宏
副校長 相羽昭仁
教 頭 峰 治 (S56年卒)
総括教諭 原 慎二

編集後記

今回のうしおを個人情報保護と経費削減の観点から、いろいろな内容を見直しました。

まず個人情報保護の観点から、協賛金納入者の氏名の記載を止めます(結果的に枚数の削減にもなります)。次に経費削減の観点から、大学別合格者数は鎌高HPにも掲載されていますので、うしおからは削除します。それと、同窓会案内やコンサート案内は、今後うしおHPを利用するようにします。

最後に全体の枚数を減らし、より見やすくする為に、A4版(表紙と最後のページはカラー)にします。今回新しくなつたうしおについて、ご意見等がございましたらお知らせ下さい。

「みんなで作ろううしお」…投稿・ご意見募集!!…

同窓会「うしお会」は、県立鎌倉高校を卒業した方なら、卒業と同時にめれなく会員となっており、ます。在学中、楽しかった人も楽しくなかった人も、卒業後は新たに世代を超えた先輩・後輩・同輩との交流ができると思います。

世代は違っても、鎌高らしい自由でユーモアあふれる仲間と、同窓会「うしお会」を通してリンク(つながって)していきたいでしょう!!

会では、会報誌「うしお」や同窓

会ホームページをもっと沢山のの方々にご利用し、楽しみ、仲間の輪を広げていただきたいと思います。

そこで、「みんなで作ろううしお」と題して、投稿やご意見を募集しております。

同窓会でこんな行事してほしい。(講演会、合唱コンクール? : etc)活躍する鎌高卒業生、鎌高卒の有名な、鎌高卒の方のお店紹介。私こんなことやっています。是非見て、聞いて… 等等など。こんな記事が

◆ 広告募集 ◆

会報「うしお」の広告を募集しております。厳しい経済環境ではありますが、会員皆様のより一層のご協力とご理解を、お願い申し上げます。

- 料 金 / 一 枠 : 10,000円
- お問い合わせ先 : うしお会広告事務局
☎ 0467-39-3668
✉ kamako@ceres.ocn.ne.jp

あつたら、こんなコーナーがあったら盛り上がるよ、というような事ありましたら同窓会までお知らせください。お待ちしております。

県立鎌倉高校同窓会「うしお会」事務局
メール :
E-mail : kamako@ceres.ocn.ne.jp
Fax : 〇四六七-三九-三六八
ホームページアドレス :
http://www.ushiokai.net.

インターネットでどんどん広がる「うしお会」

<http://ushiokai.net>

うしお会  で検索!

会報誌「うしお」のウェブ配信はもちろん、同窓会情報など多くの同窓生にとって、いつも新しい情報が掲載されていて、アクセスするのが楽しいホームページです。

ポイント!!

1. 会報誌「うしお」Web版が配信されています。
2. 住所が変わった方から簡単にご報告いただけます。
3. 各年代で行われる、または行われた同窓会情報をご覧いただけます。
4. 同窓会情報のページはインターネット上で情報交換が可能です。
5. facebookでも「うしお会」仲間がグループを作って情報交換中です!
facebookを楽しんでいる人達の間で自然発生的に出来上がった「鎌高OB・OGのfacebookのグループ」には現在約200人超のうしお会の会員が参加しています。
ここでは日々の鎌高OB、OGの活躍の話題などが情報交換され、そして年代を超えたソーシャルネットワーク上のコミュニケーションが行われています。「友達を検索」してみてください!!

お名前とメールアドレスをご連絡ください。事務局からご招待のメールをお送りいたします。

うしお会事務局のボランティアを募集しています!
E-mail: kamako@ceres.ocn.ne.jp <<mailto:kamako@ceres.ocn.ne.jp>>



発行所
 二〇一八(平成30)年 五月三〇日
 発行
 神奈川県立 鎌倉高等学校・同窓会 潮会
 鎌倉市七里ヶ浜 二一二十一ー一
 事務局直通 (TEL/FAX)
 〇四六七 三九一三六六八



<http://www.ushiokai.net>
E-mail: kamako@ceres.ocn.ne.jp